

IV 未就学児と小学生の保護者、中学生・高校生の区民の方が対象
～ 居場所・自転車の利用についてなど ～

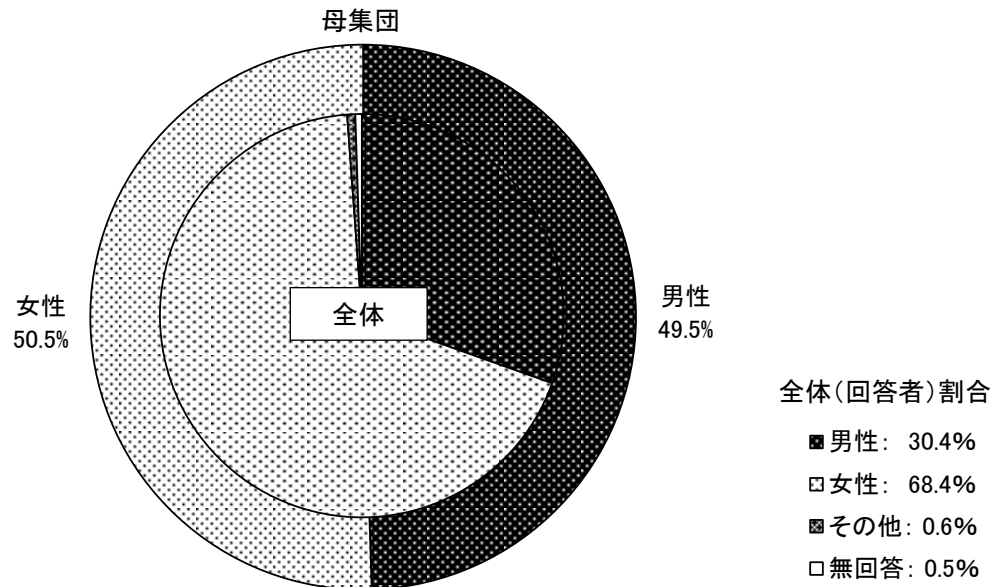
1 回答者の属性について

(1) 性別

母集団：大田区 12 歳以上の人口 (n=667, 176) 令和 5 年 1 月 1 日現在

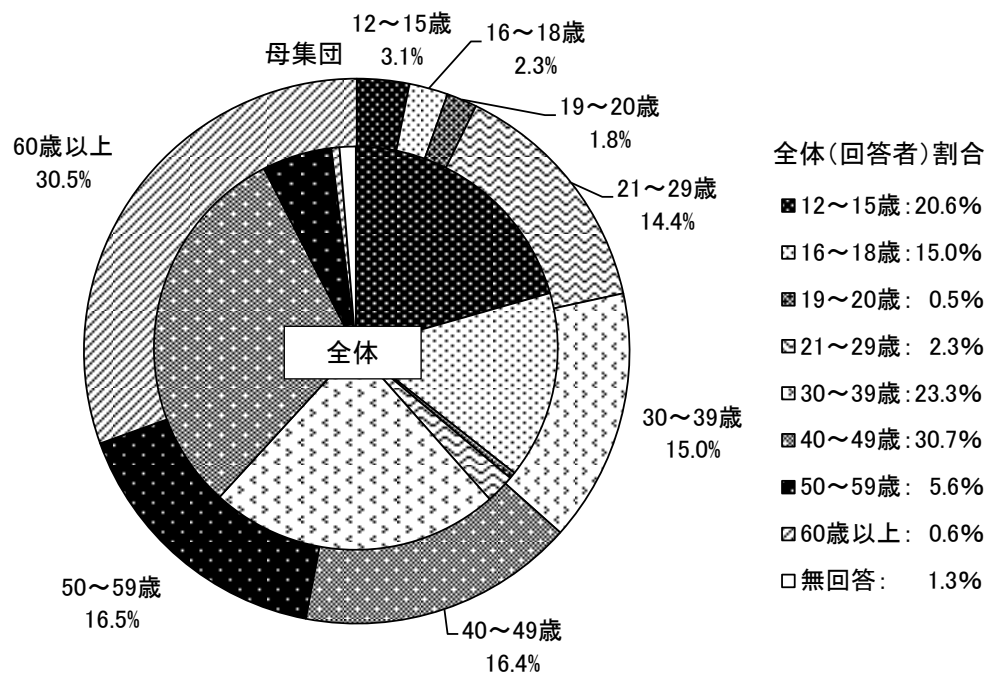
全 体：有効回収数 (n=772)

全体 n=772



(2) 年齢

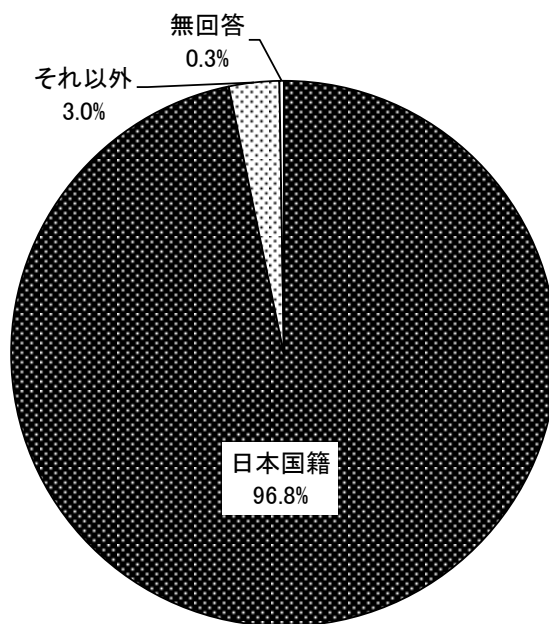
全体 n=772



【出典】大田区：年齢別人口報告表資料（日本人+外国人）令和 5 年 1 月 1 日現在

(3) 国籍

全体 n=772

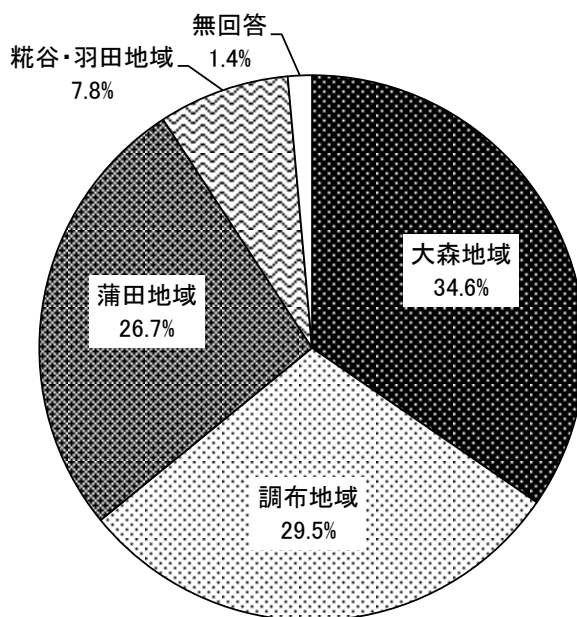


■ 日本国籍以外

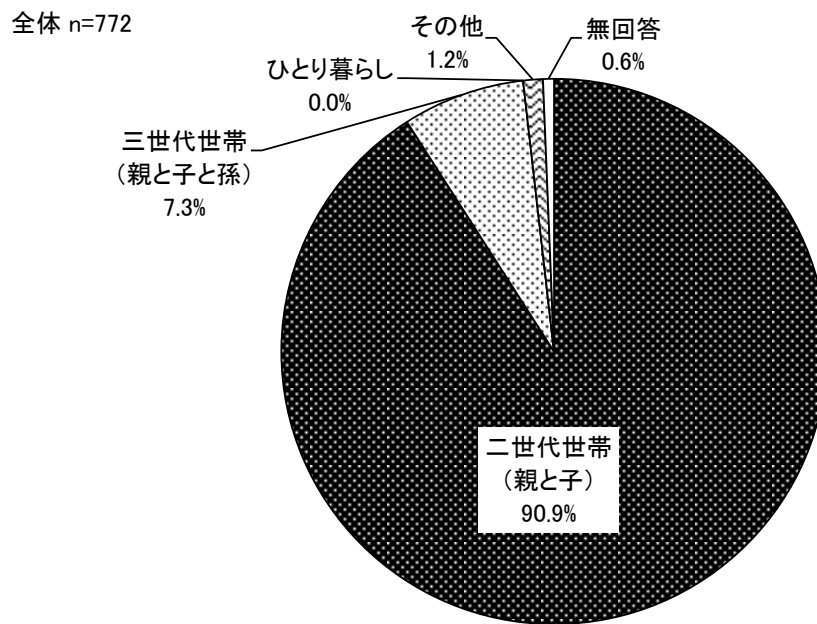
	中国	韓国	ベトナム	ネパール	フィリピン	タイ	無回答
人数	8	4	3	2	2	1	3

(4) 居住地域

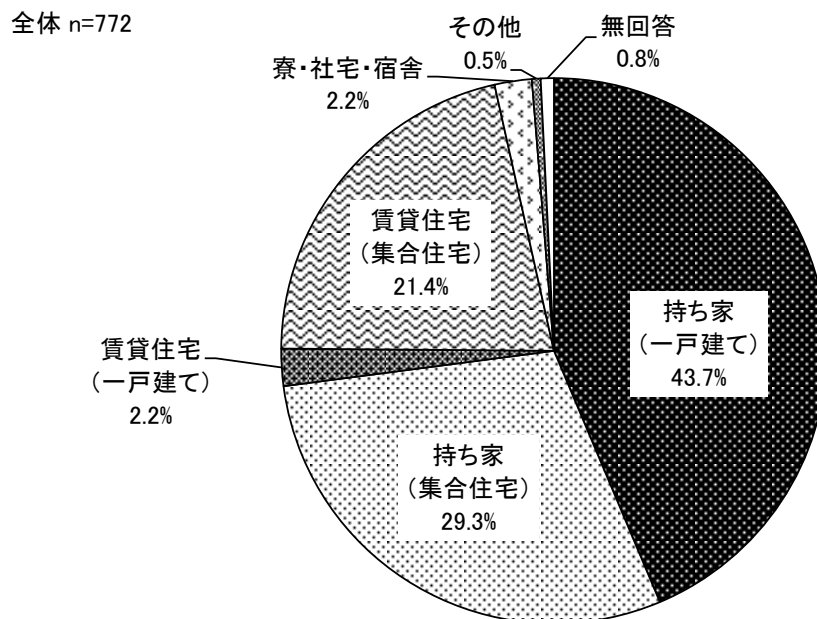
全体 n=772



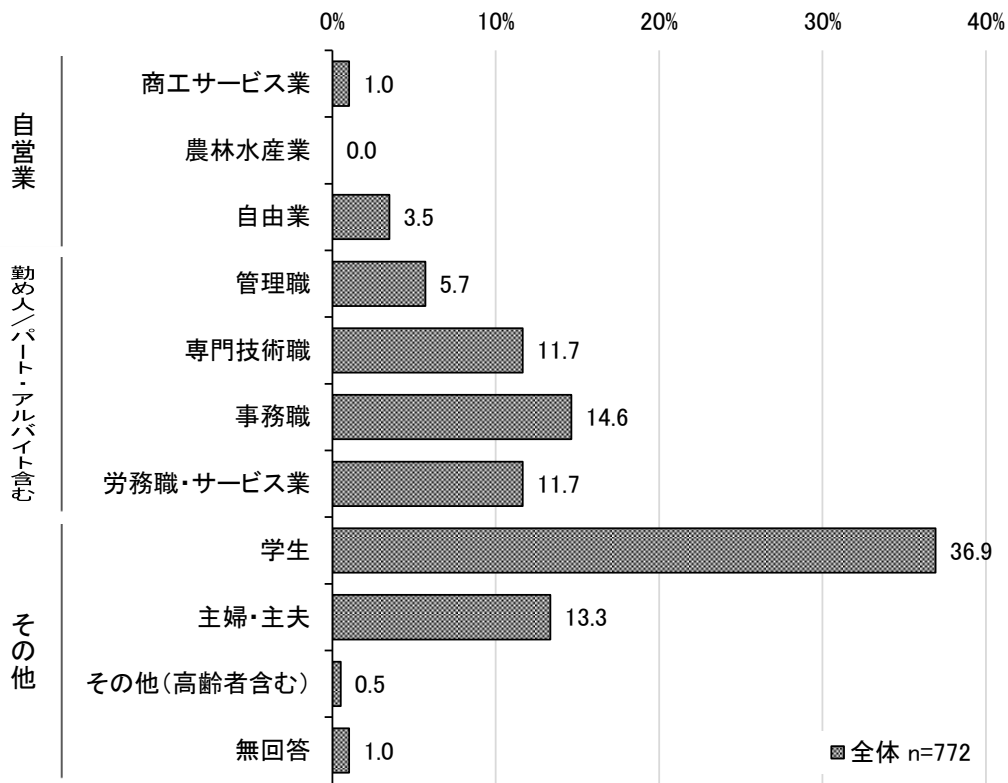
(5) 家族構成



(6) 住まいの種類

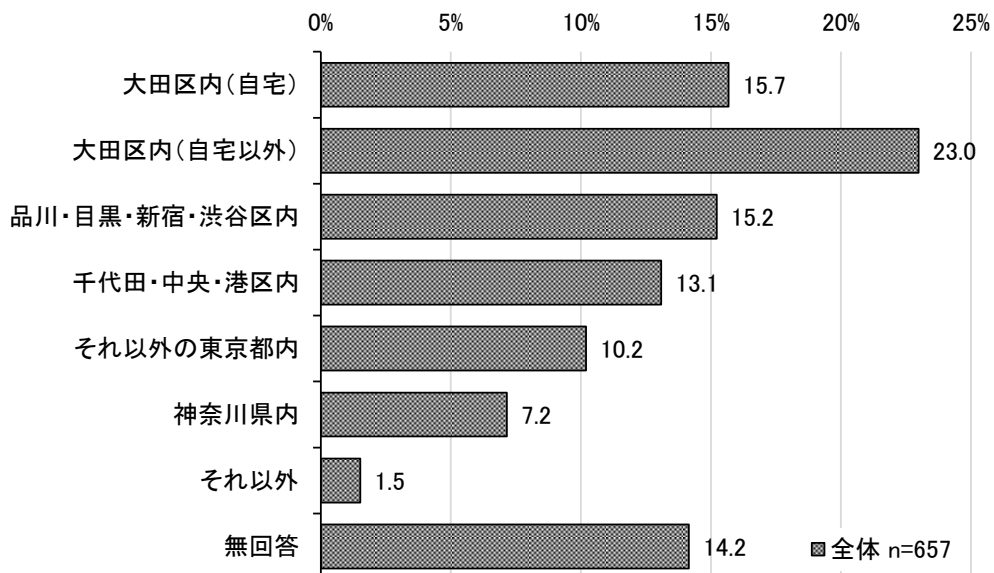


(7) 職業

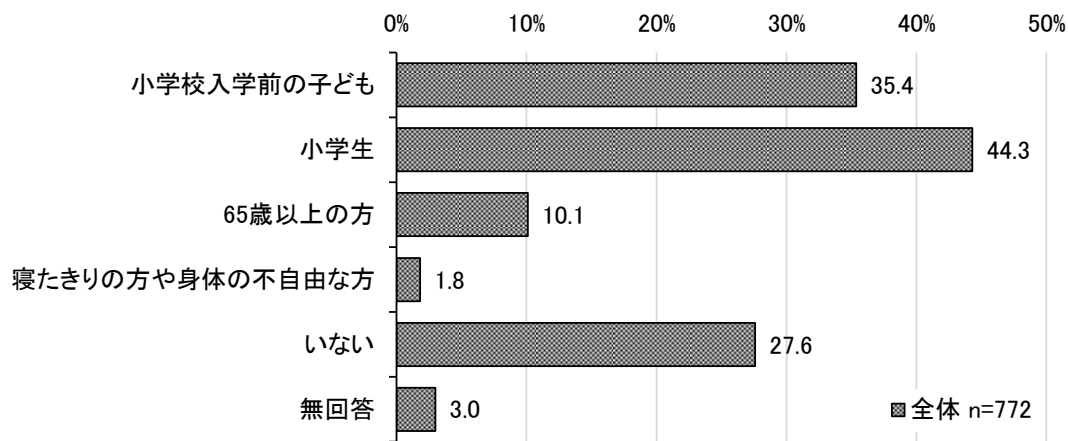


(8) 主な通勤・通学先

【(7) 職業で「自営業」「勤め人」「学生」と回答した方】

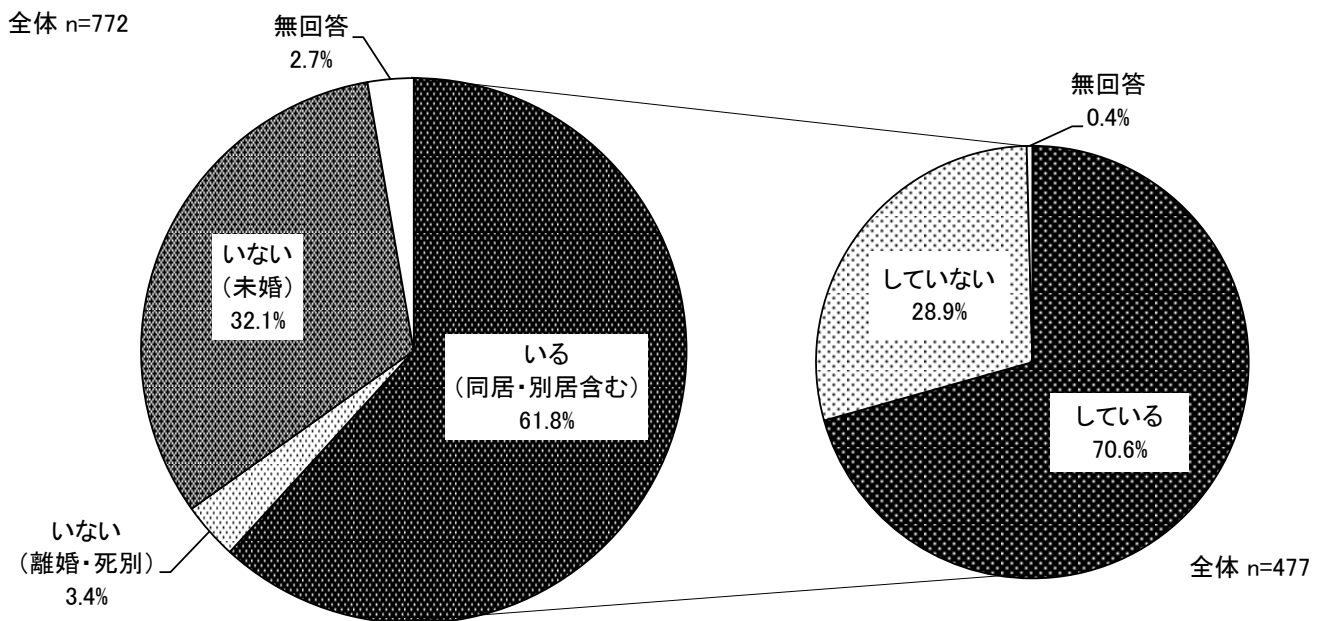


(9) 同居家族

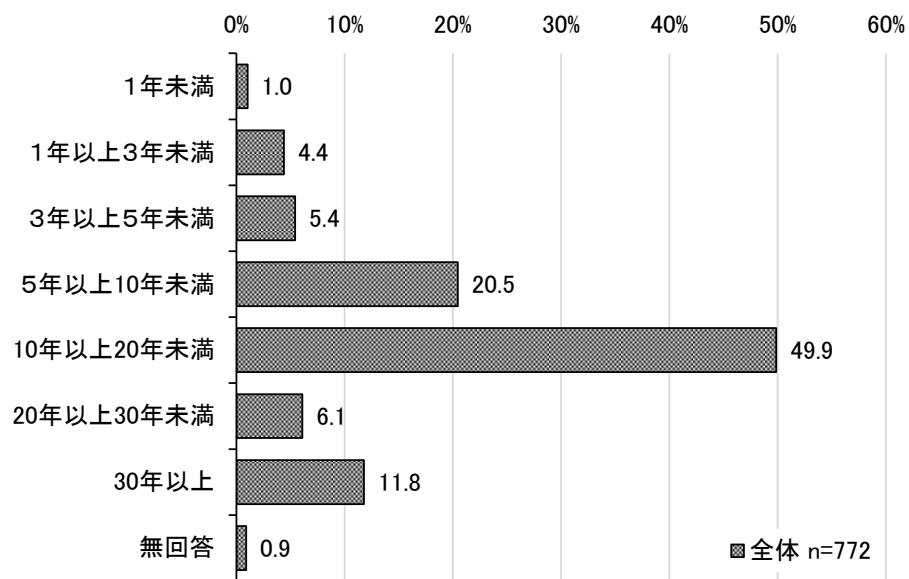


(10) 配偶者の有無及び (11) 共働きの状況

【(10) 配偶者の有無で「いる (同居・別居含む)」と回答した方】



(12) 居住年数



2 居場所について

(1) 「中高生ひろば」の認知度

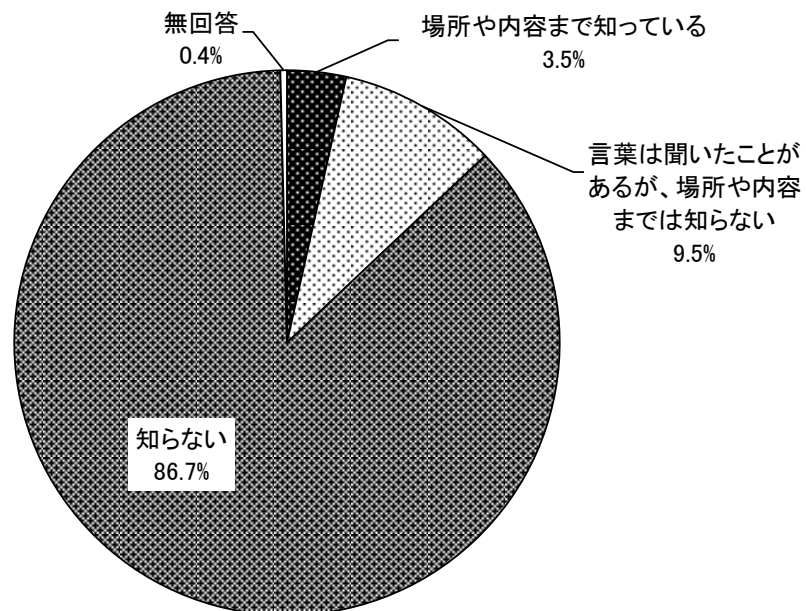
◇「場所や内容まで知っている」は1割未満となっている

問1 友達との交流、読書や学習、音楽スタジオによる文化活動など、各々が自由に過ごすことのできる中高生世代（12～18歳）の居場所として、「中高生ひろば」を羽田と蒲田の2か所で設置しています。

あなたは、この施設を知っていますか。（1つのみ）

“中高生ひろば”の認知度については、「知らない」が86.7%で最も高く、次いで「言葉は聞いたことがあるが、場所や内容までは知らない」が9.5%、「場所や内容まで知っている」が3.5%となっている。

全体 n=772

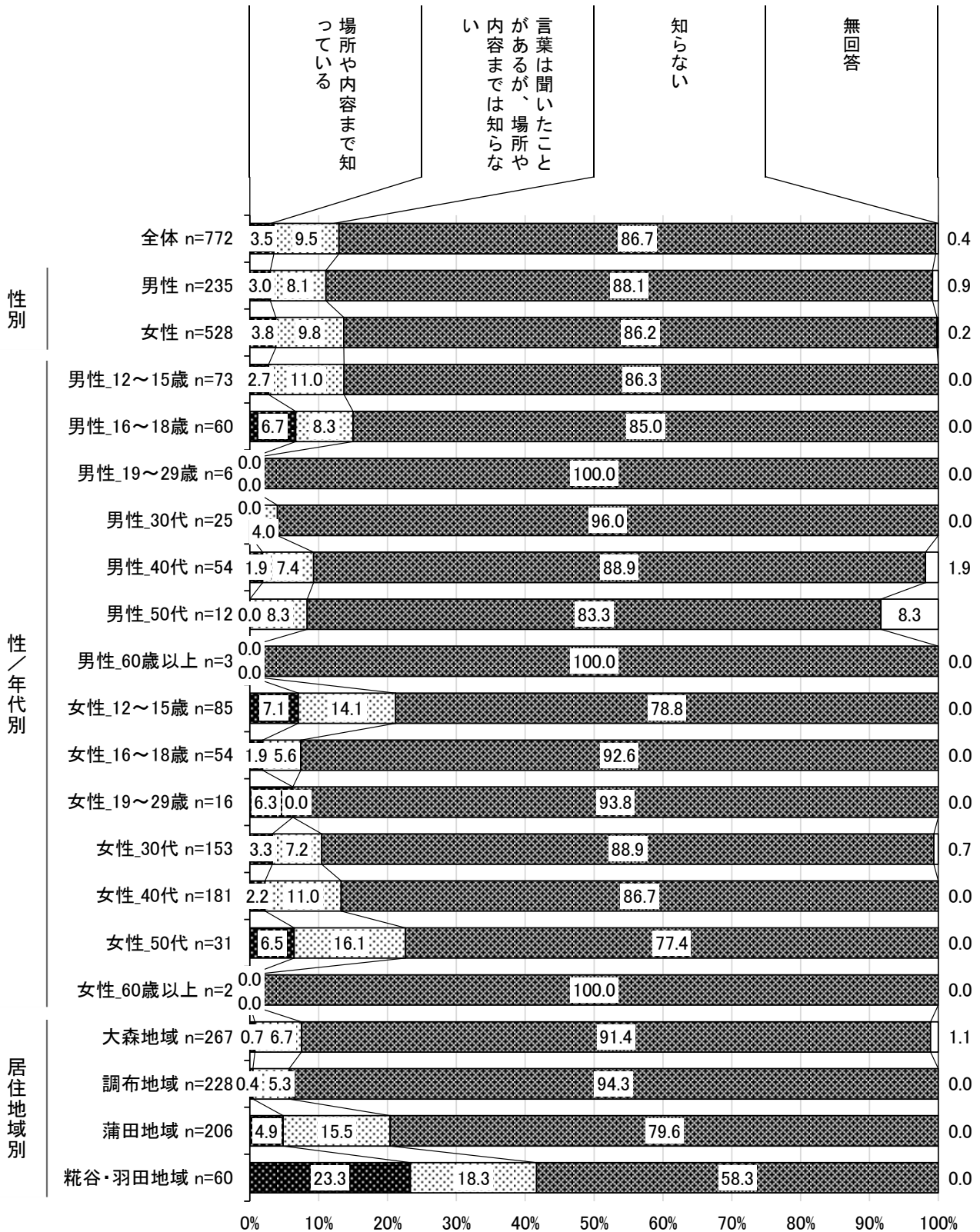


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、大きな差はみられない。

性／年代別でみると、「場所や内容まで知っている」は男性 16～18 歳、女性 12～15 歳、女性 50 代で 1 割弱となっている。

居住地域別でみると、「場所や内容まで知っている」は糞谷・羽田地域で 2 割前半と高くなっている。

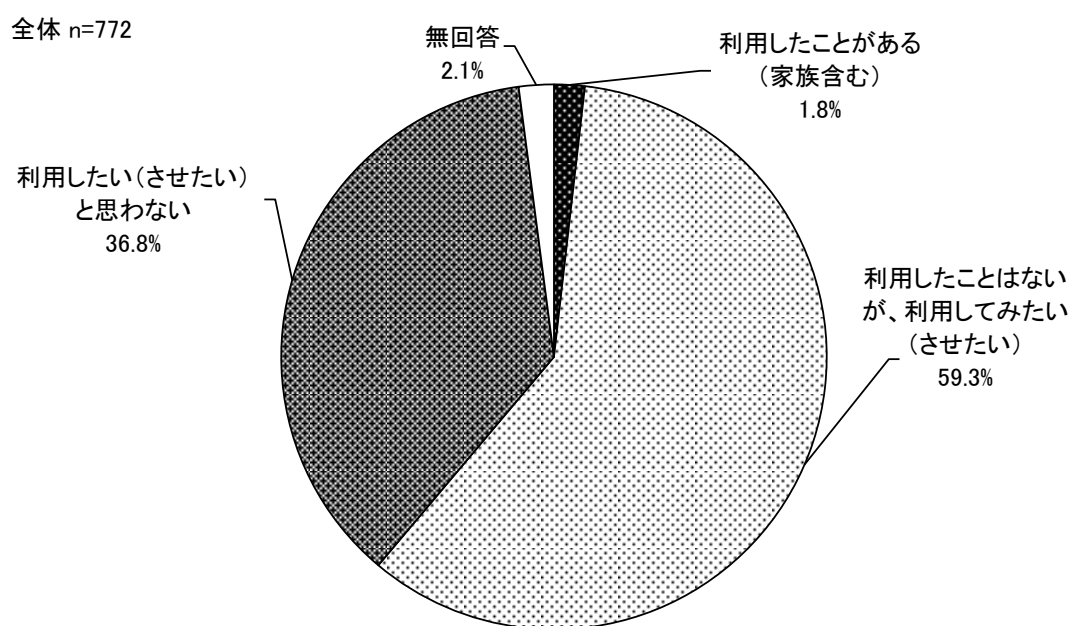


(2) 「中高生ひろば」の利用状況及び利用意向

◇「利用したことがある（家族含む）」は1割未満となっている

問2 「中高生ひろば」を利用したこと（中高生世代のご家族が利用されたこと）はありますか。また、自分の近くにあったら、利用したい（ご家族に利用させたい）と思いますか。（1つのみ）

“中高生ひろば”の利用状況及び利用意向については、「利用したことはないが、利用してみたい（させたい）」が59.3%で最も高く、次いで「利用したい（させたい）と思わない」が36.8%、「利用したことがある（家族含む）」が1.8%となっている。

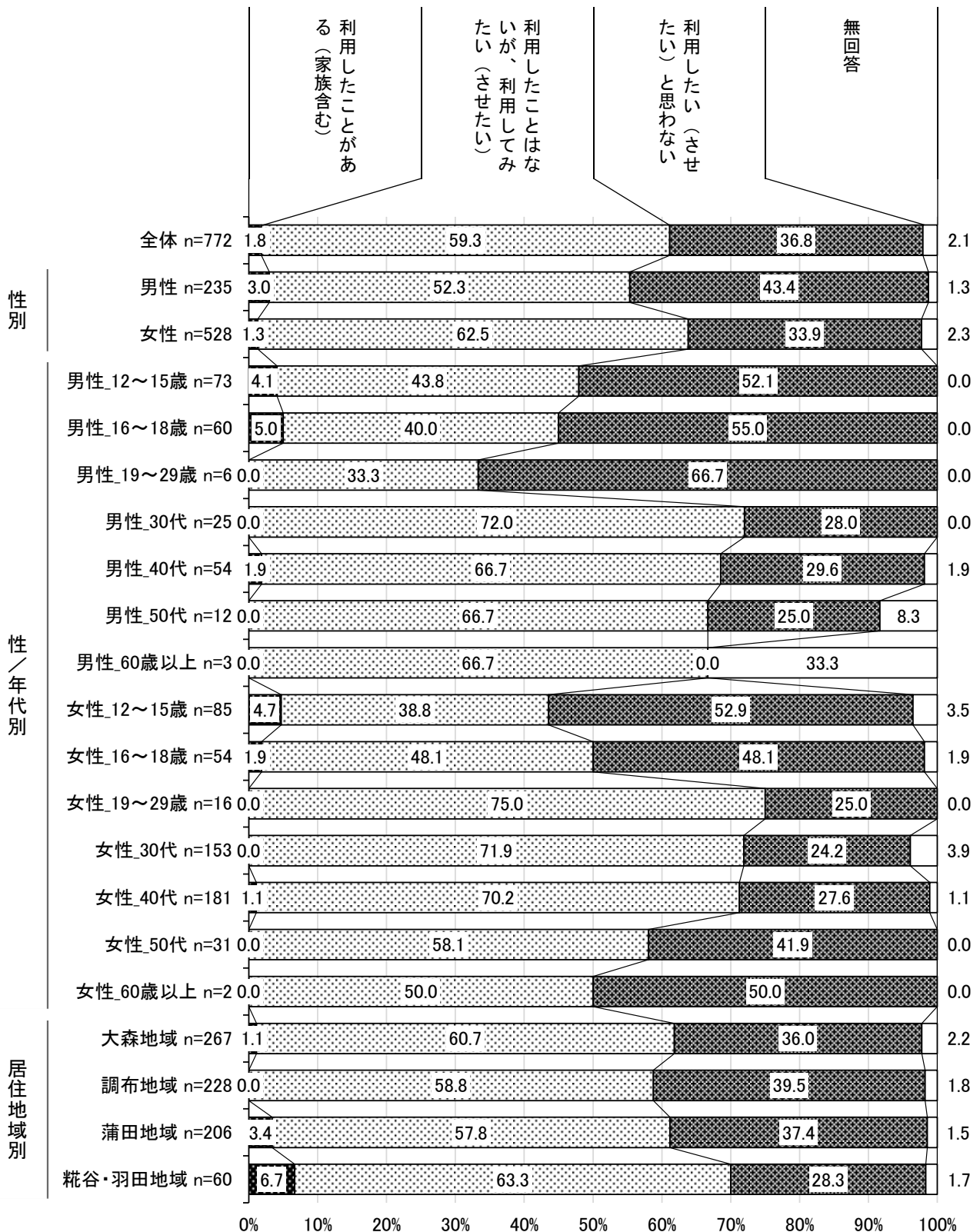


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「利用したことがある（家族含む）」に大きな差はみられないものの、「利用したことはないが、利用してみたい（させたい）」では男性が52.3%、女性が62.5%と、女性が10.2ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「利用したことがある（家族含む）」は男性12～15歳が4.1%、男性16～18歳が5.0%、女性12～15歳が4.7%となっている。

居住地域別でみると、「利用したことがある（家族含む）」は糞谷・羽田地域で1割弱となっている。

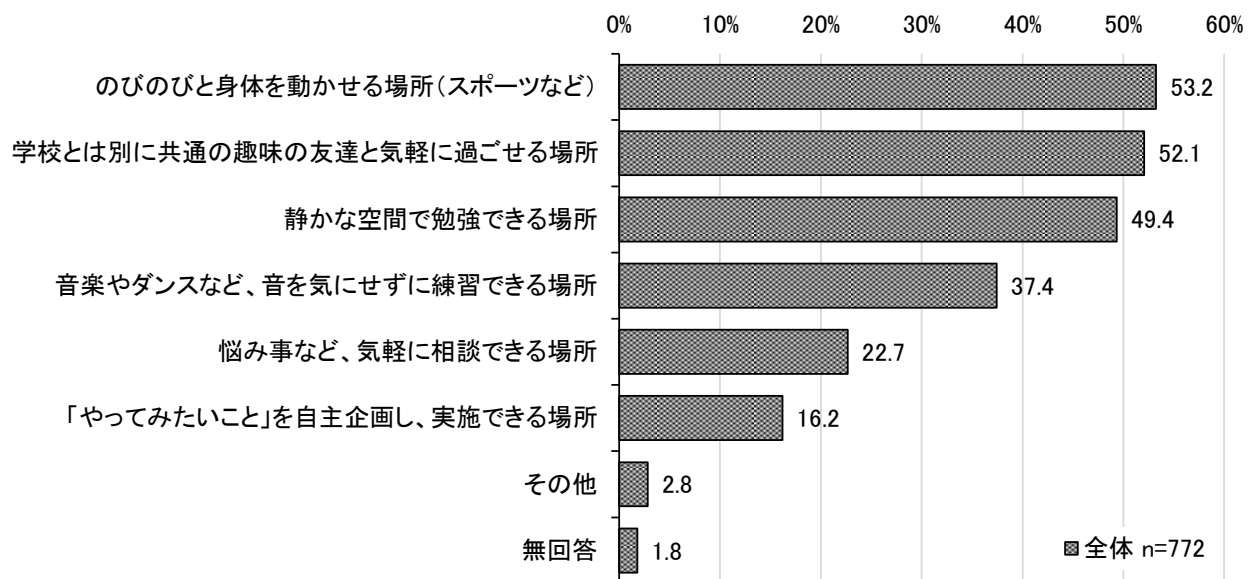


(3) 中高生世代の時に利用したい施設

◇「のびのびと身体を動かせる場所（スポーツなど）」が5割前半で最も高くなっている

問3 中高生世代の時に、こんな施設があったら利用してみたい（利用してみたかった）と思うことを教えてください。（3つまで）

中高生世代の時に利用したい施設については、「のびのびと身体を動かせる場所（スポーツなど）」が53.2%で最も高く、次いで「学校とは別に共通の趣味の友達と気軽に過ごせる場所」が52.1%、「静かな空間で勉強できる場所」が49.4%となっている。

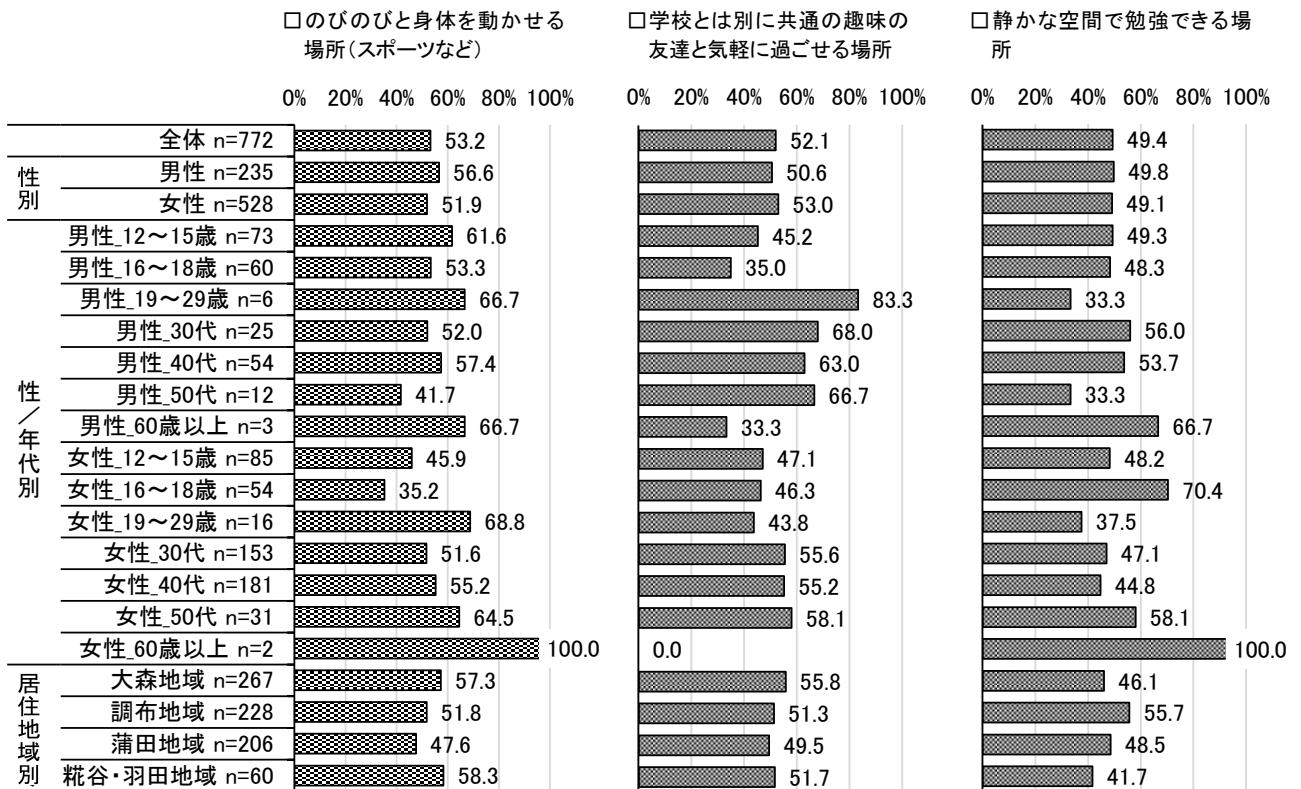


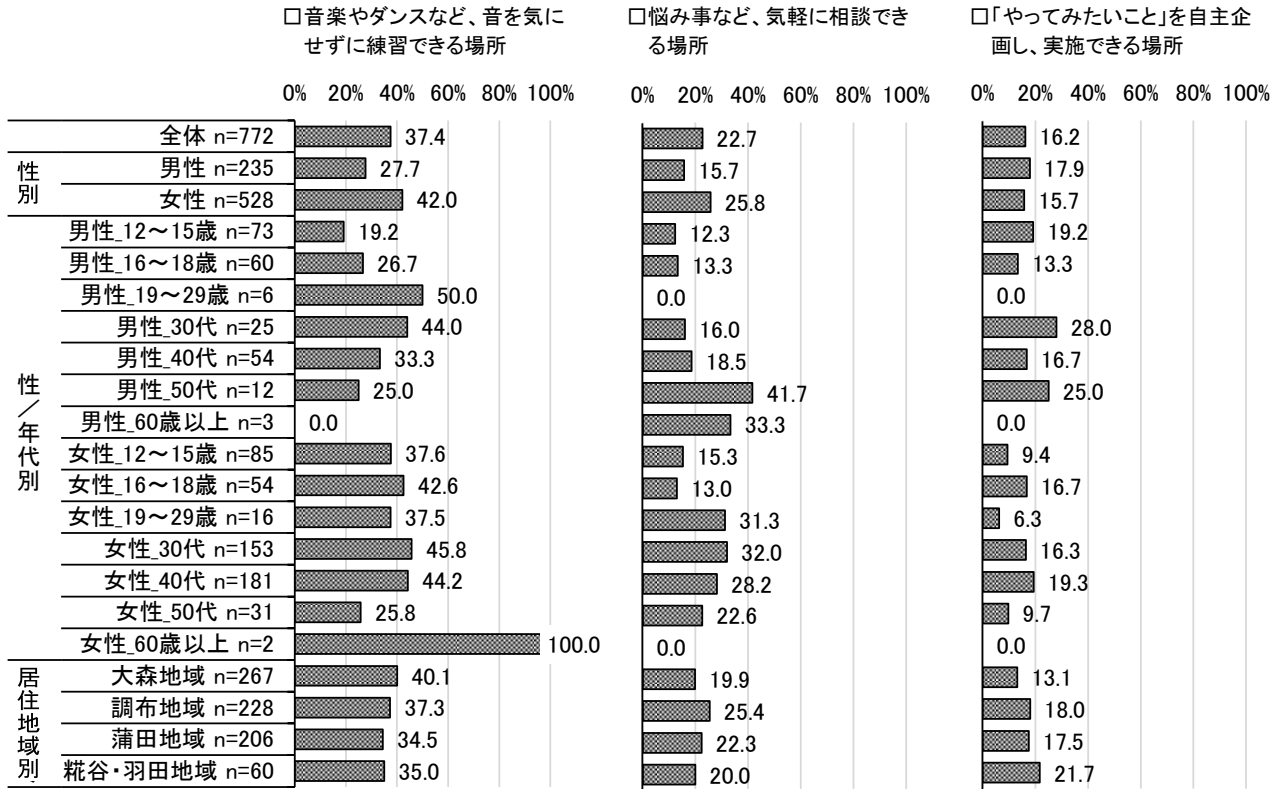
■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、男性では「のびのびと身体を動かせる場所（スポーツなど）」が最も高く、女性では「学校とは別に共通の趣味の友達と気軽に過ごせる場所」が最も高くなっている。「のびのびと身体を動かせる場所（スポーツなど）」は男性 56.6%、女性が 51.9%と、男性が 4.7 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、男性 12～15 歳、男性 16～18 歳では「のびのびと身体を動かせる場所（スポーツなど）」が、女性 12～15 歳、女性 16～18 歳では「静かな空間で勉強できる場所」が最も高くなっている。

居住地域別でみると、大森地域、糀谷・羽田地域では「のびのびと身体を動かせる場所（スポーツなど）」が、調布地域では「静かな空間で勉強できる場所」が、蒲田地域では「学校とは別に共通の趣味の友達と気軽に過ごせる場所」が最も高くなっている。





3 家庭生活について

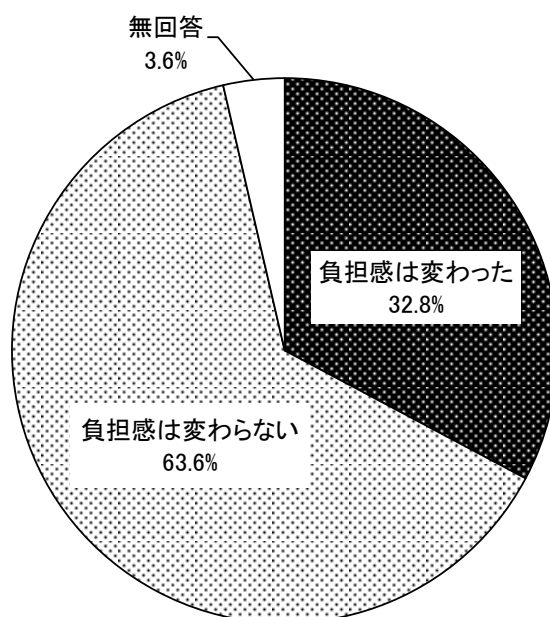
(1) コロナ禍での家事や育児の負担感

◇「負担感が変わった」は3割前半となっている

問4 コロナ禍で家事や育児の負担感は変わりましたか。(1つのみ)

コロナ禍での家事や育児の負担感については、「負担感が変わった」が32.8%、「負担感が変わらない」が63.6%と、「負担感が変わらない」が30.8ポイント上回っている。

全体 n=772

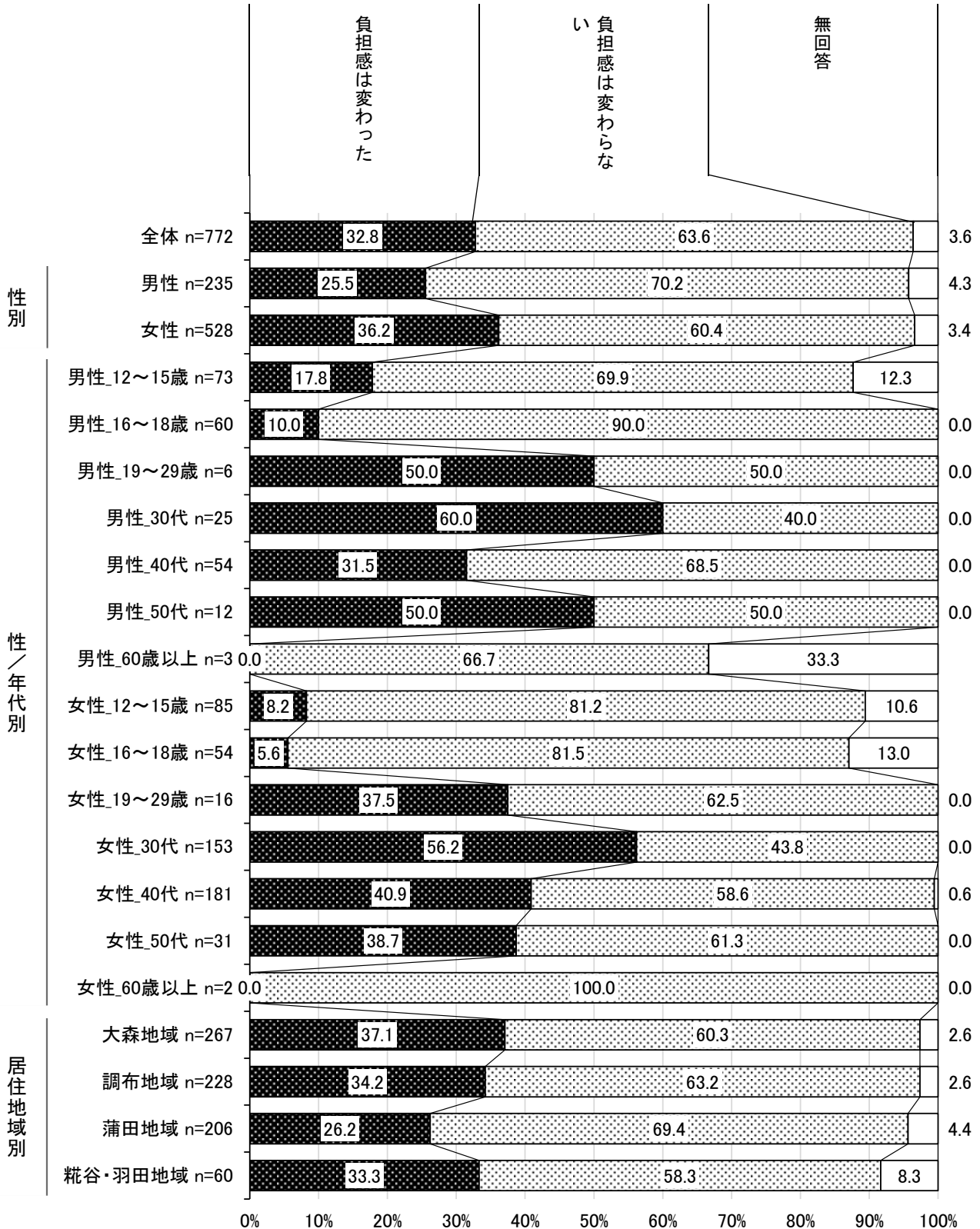


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「負担感が変わった」は男性が25.5%、女性が36.2%と、女性が10.7ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「負担感が変わった」は女性30代で5割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、「負担感が変わった」は大森地域で3割後半と高くなっている。



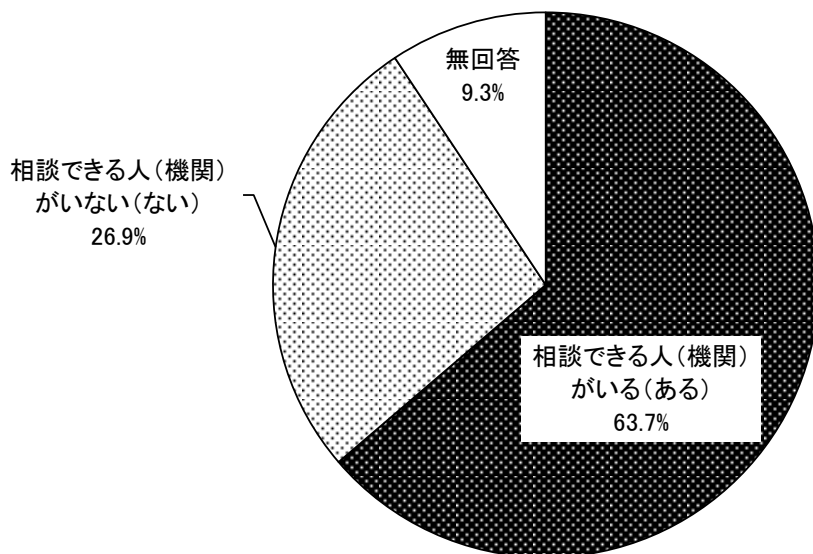
(2) 子育てに関する相談先の有無

◇「相談できる人（機関）がいる（ある）」は6割前半となっている

問5 子育てで身近に相談できる人・機関はありますか。（1つのみ）

子育てに関する相談先の有無については、「相談できる人（機関）がいる（ある）」が63.7%、「相談できる人（機関）がない（ない）」が26.9%と、「相談できる人（機関）がいる（ある）」が36.8ポイント上回っている。

全体 n=772

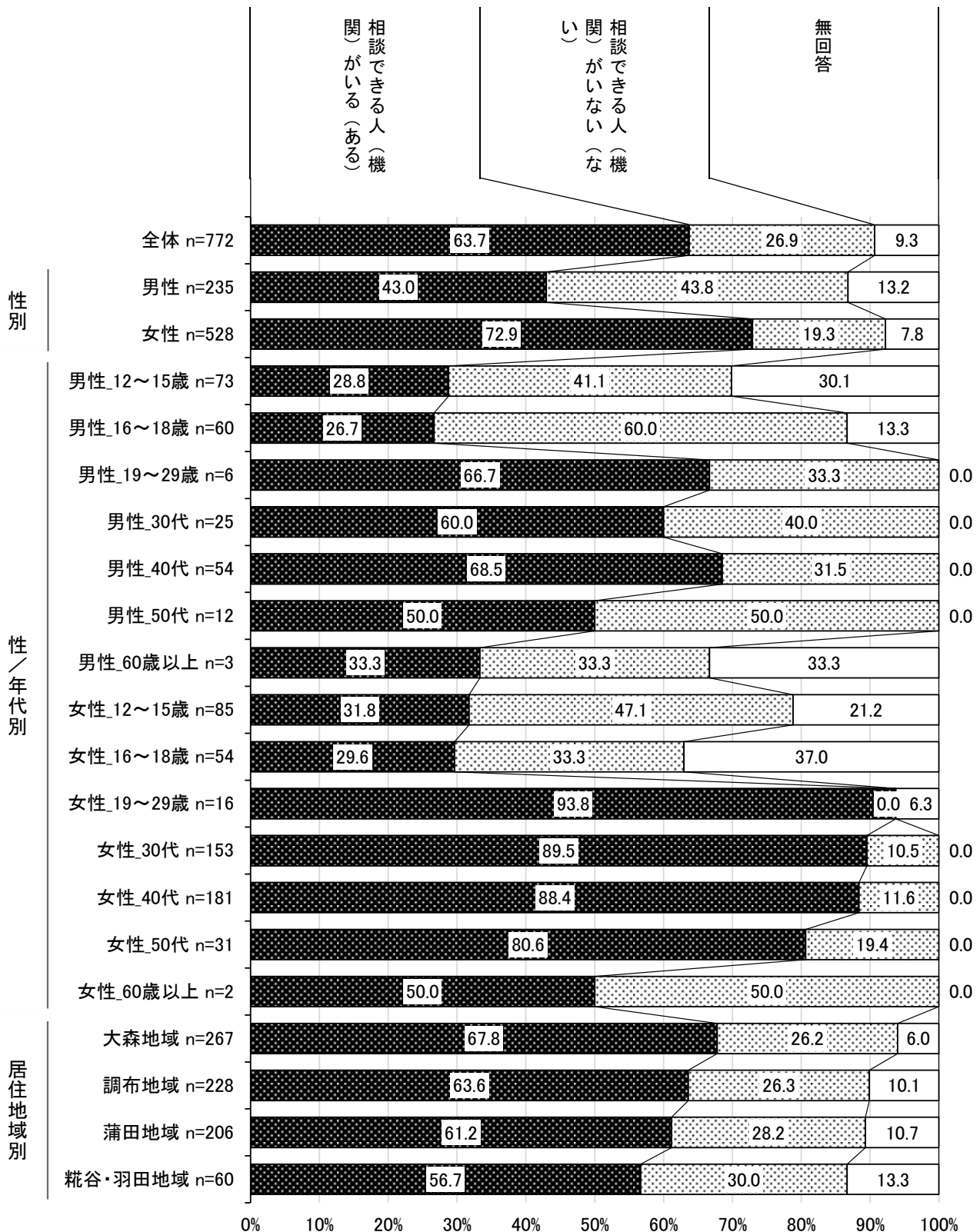


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「相談できる人（機関）がいる（ある）」は男性が43.0%、女性が72.9%と、女性が29.9ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「相談できる人（機関）がいる（ある）」は女性30代で約9割と高くなっている。

居住地域別でみると、「相談できる人（機関）がいる（ある）」は大森地域で6割後半と高くなっている。

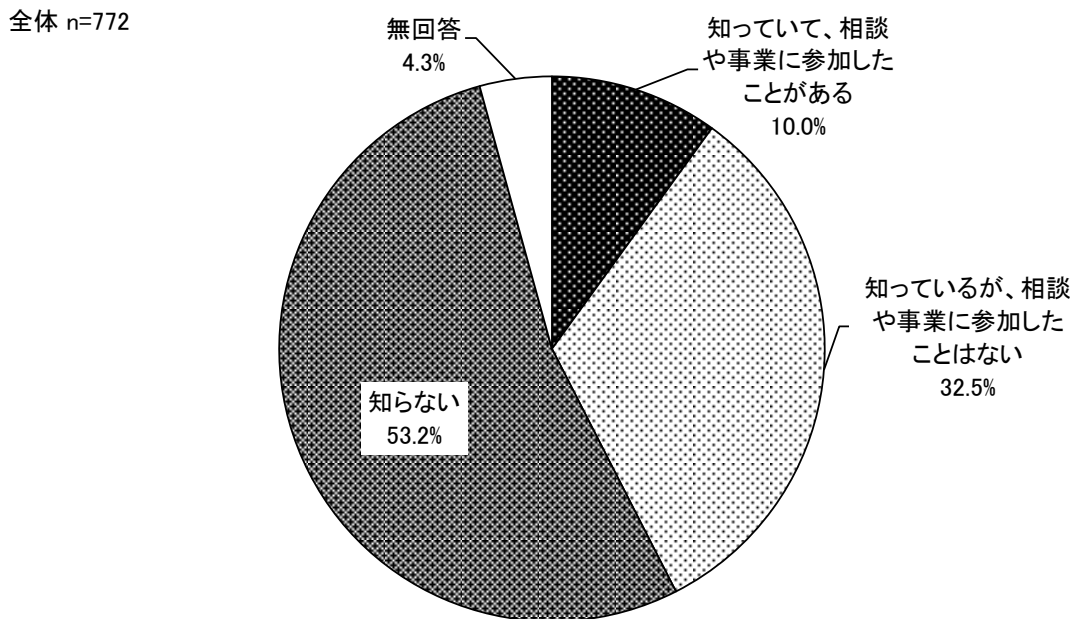


(3) 「子ども家庭支援センター」の認知度

◇ 《知っている》（「知っていて、相談や事業に参加したことがある」、「知っているが、相談や事業に参加したことはない」の合計値）は4割前半となっている

問6 あなたは、「子ども家庭支援センター」を知っていますか。（1つのみ）

“子ども家庭支援センター”の認知度については、「知っていて、相談や事業に参加したことがある」、「知っているが、相談や事業に参加したことはない」の合計値《知っている》が42.5%である一方で、「知らない」が53.2%と、「知らない」が10.7ポイント上回っている。

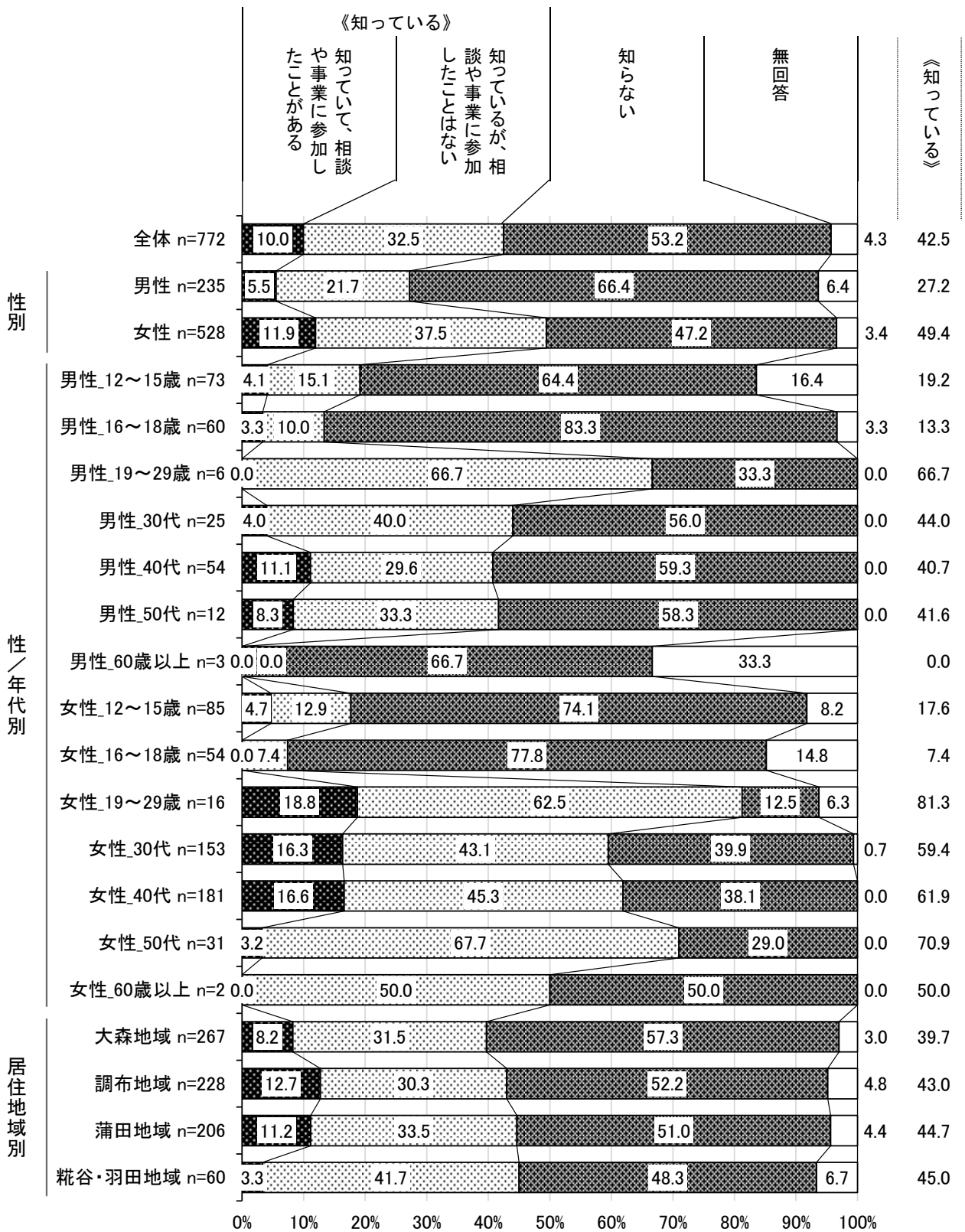


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、《知っている》は男性が27.2%、女性が49.4%と、女性が22.2ポイント上回っている。

性／年代別でみると、《知っている》は女性50代で約7割と高くなっている。

居住地域別でみると、《知っている》は蒲田地域、糀谷・羽田地域で4割半ばと高くなっている。



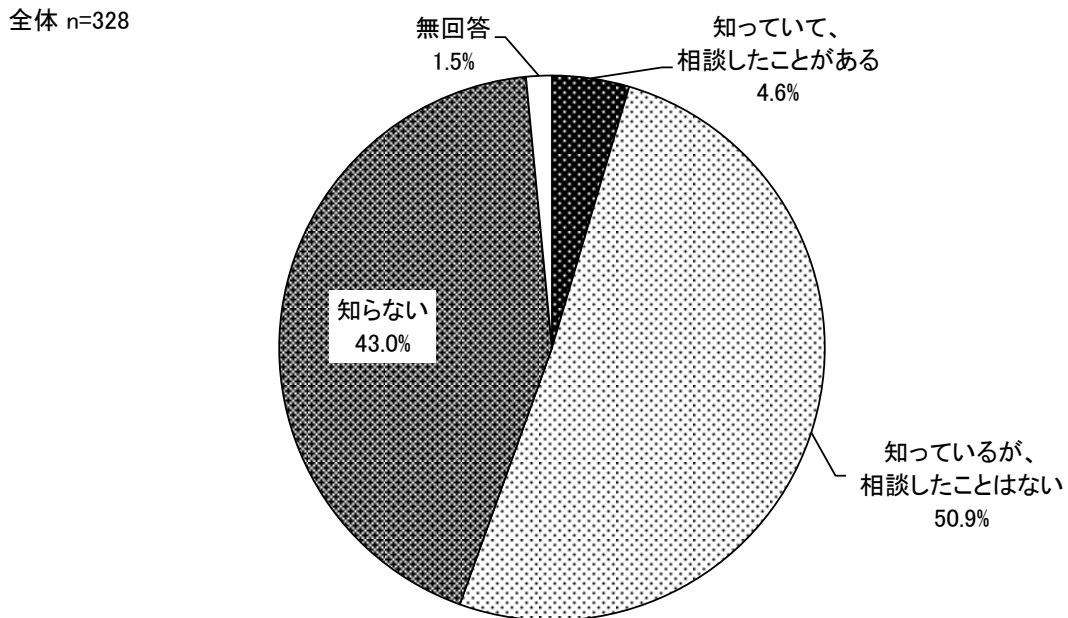
(4) 子ども家庭支援センターでの子どもからの相談受付の認知度

◇《知っている》(「知っている、相談したことがある」、「知っているが、相談したことはない」の合計値)は5割半ばとなっている

【問6で「知っている、相談や事業に参加したことがある」「知っているが、相談や事業に参加したことはない」と回答した方に伺います。】

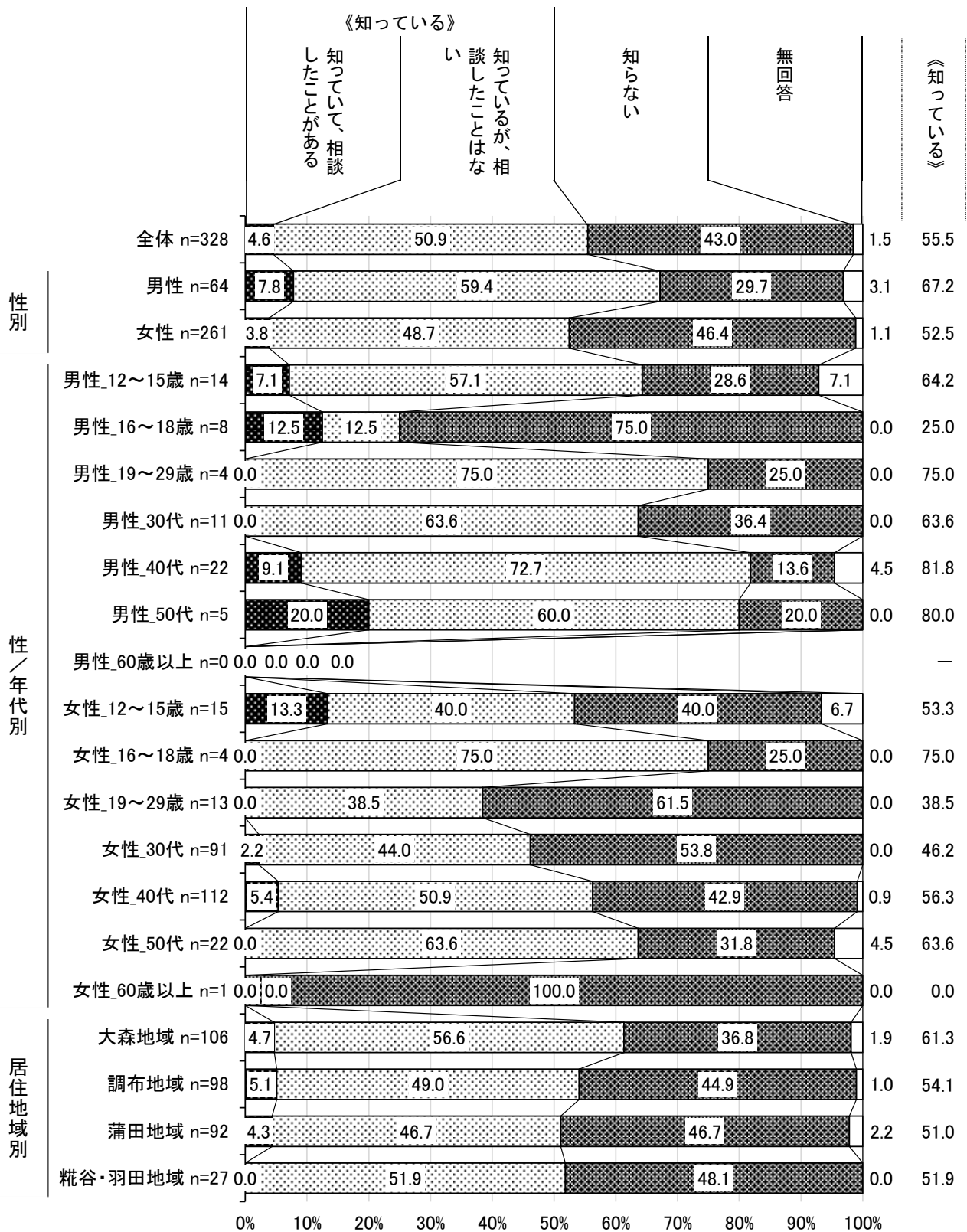
問6-1 子ども家庭支援センターでは、子どもからの相談も受けていることを知っていますか。(1つのみ)

子ども家庭支援センターでの子どもからの相談受付の認知度については、「知っている、相談したことがある」、「知っているが、相談したことはない」の合計値《知っている》が55.5%である一方で、「知らない」が43.0%と、《知っている》が12.5ポイント上回っている。



■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、《知っている》は男性が67.2%、女性が52.5%と、男性が14.7ポイント上回っている。



(5) 子ども家庭支援センターの事業で知っていること

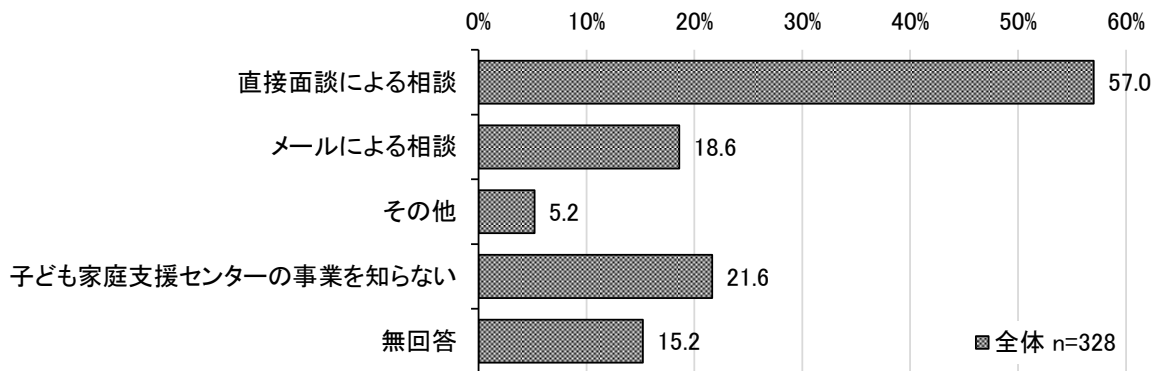
◇「直接面談による相談」が5割後半となっている

【問6で「知っていて、相談や事業に参加したことがある」「知っているが、相談や事業に参加したことはない」と回答した方に伺います。】

**問6-2 子ども家庭支援センターでは、さまざまな相談の実施や窓口の案内を行っています。
あなたが知っている子ども家庭支援センターの事業を教えてください。(いくつでも)**

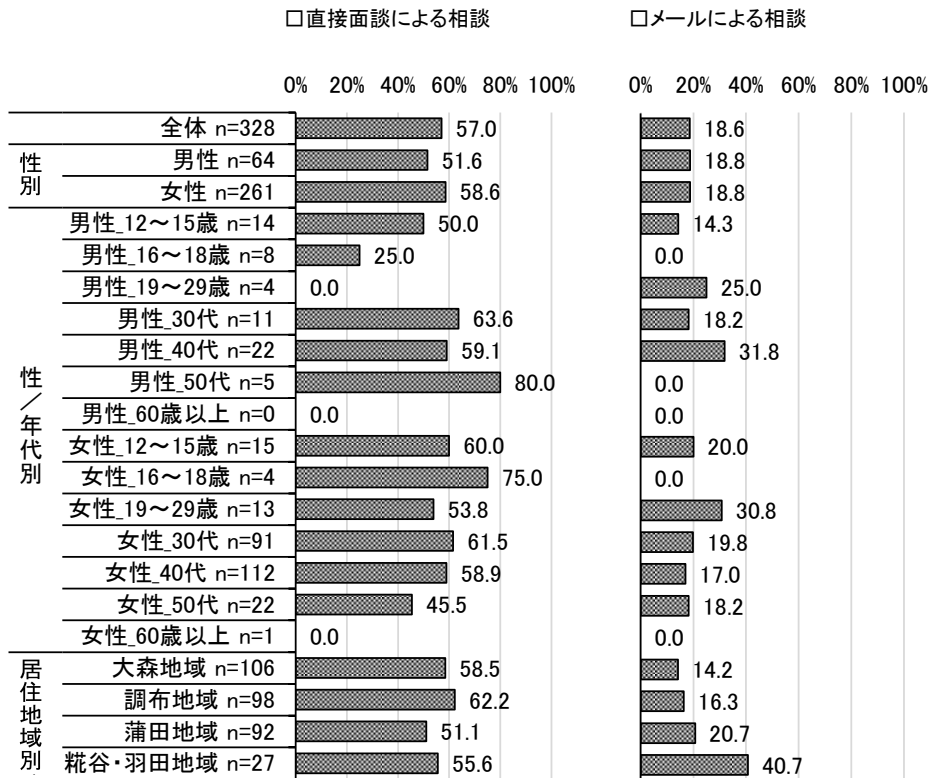
子ども家庭支援センターの事業で知っていることについては、「直接面談による相談」が57.0%で最も高く、次いで「メールによる相談」が18.6%となっている。

なお、「子ども家庭支援センターの事業を知らない」は21.6%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「直接面談による相談」は男性が51.6%、女性が58.6%と、女性が7.0ポイント上回っている。



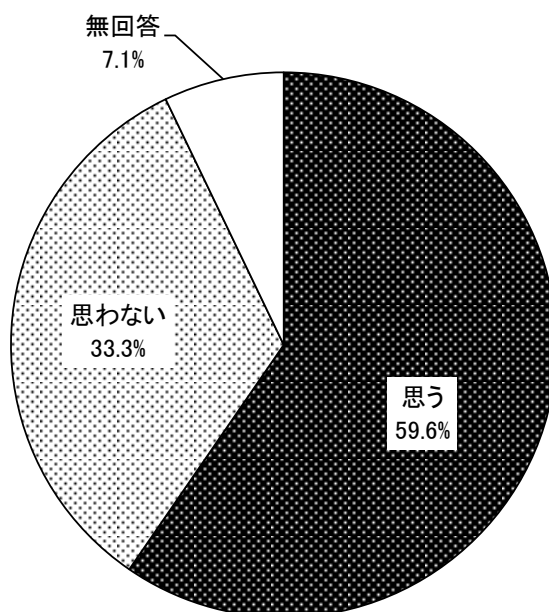
(6) 子育て家庭や親子に対する支援の意向

◇「思う」は約6割となっている

問7 機会があれば子育てする家庭や親子を支援したいと思いますか。(1つのみ)

子育て家庭や親子に対する支援の意向については、「思う」が59.6%、「思わない」が33.3%と、「思う」が26.3ポイント上回っている。

全体 n=772

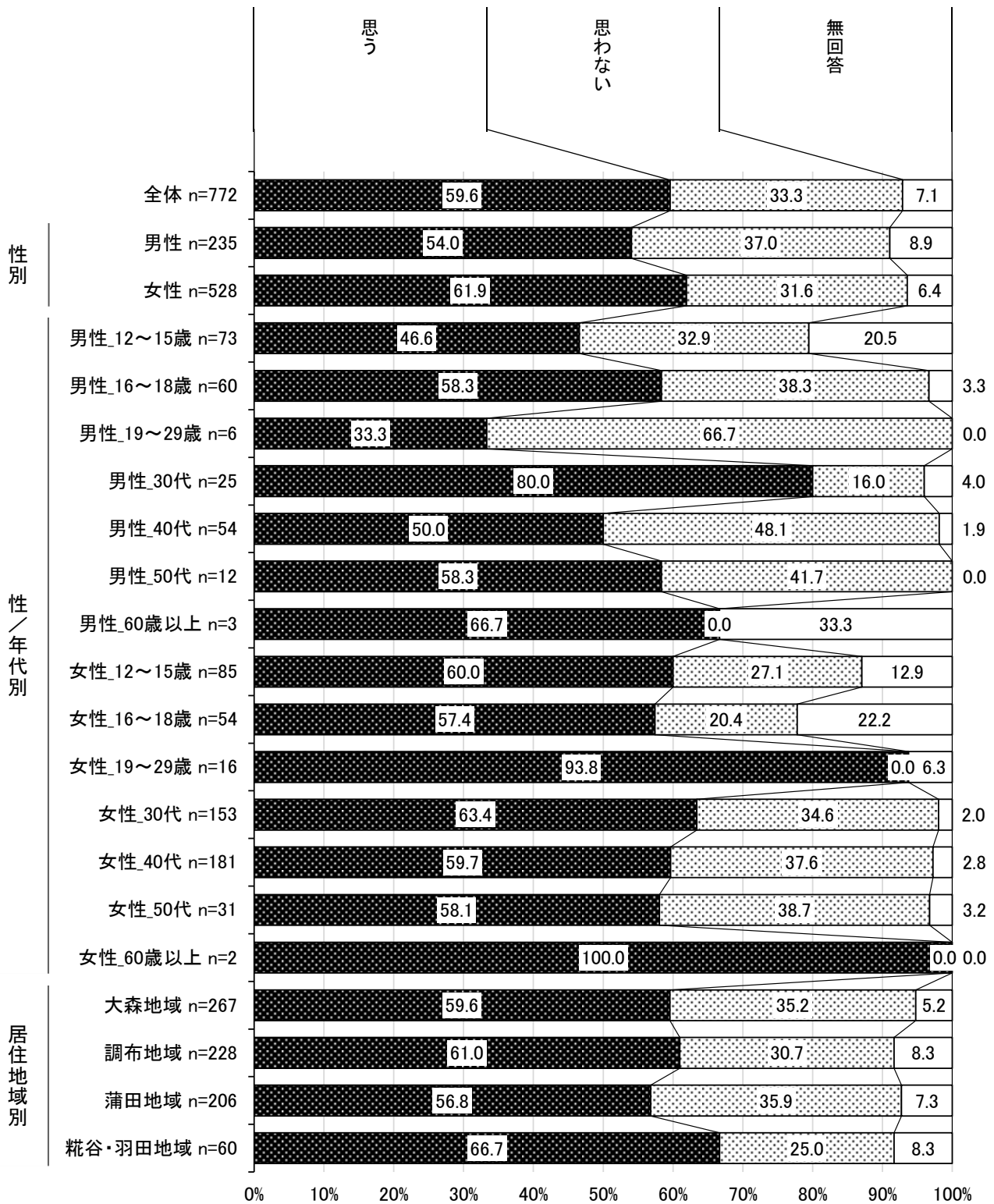


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「思う」は男性が54.0%、女性が61.9%と、女性が7.9ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「思う」は女性30代で6割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、「思う」は糀谷・羽田地域で6割後半と高くなっている。



4 災害時の避難等について

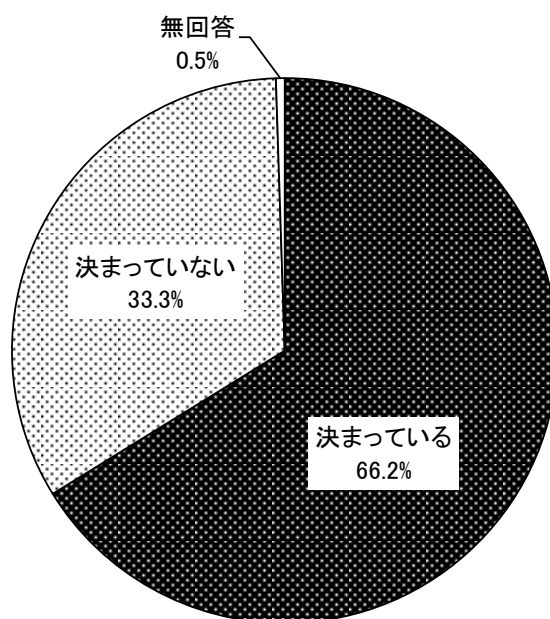
(1) 災害時の避難先の決定状況

◇「決まっている」は6割後半となっている

問8 災害時の避難先は決まっていますか。(1つのみ)

災害時の避難先の決定状況については、「決まっている」が66.2%、「決まっていない」が33.3%と、「決まっている」が32.9ポイント上回っている。

全体 n=772

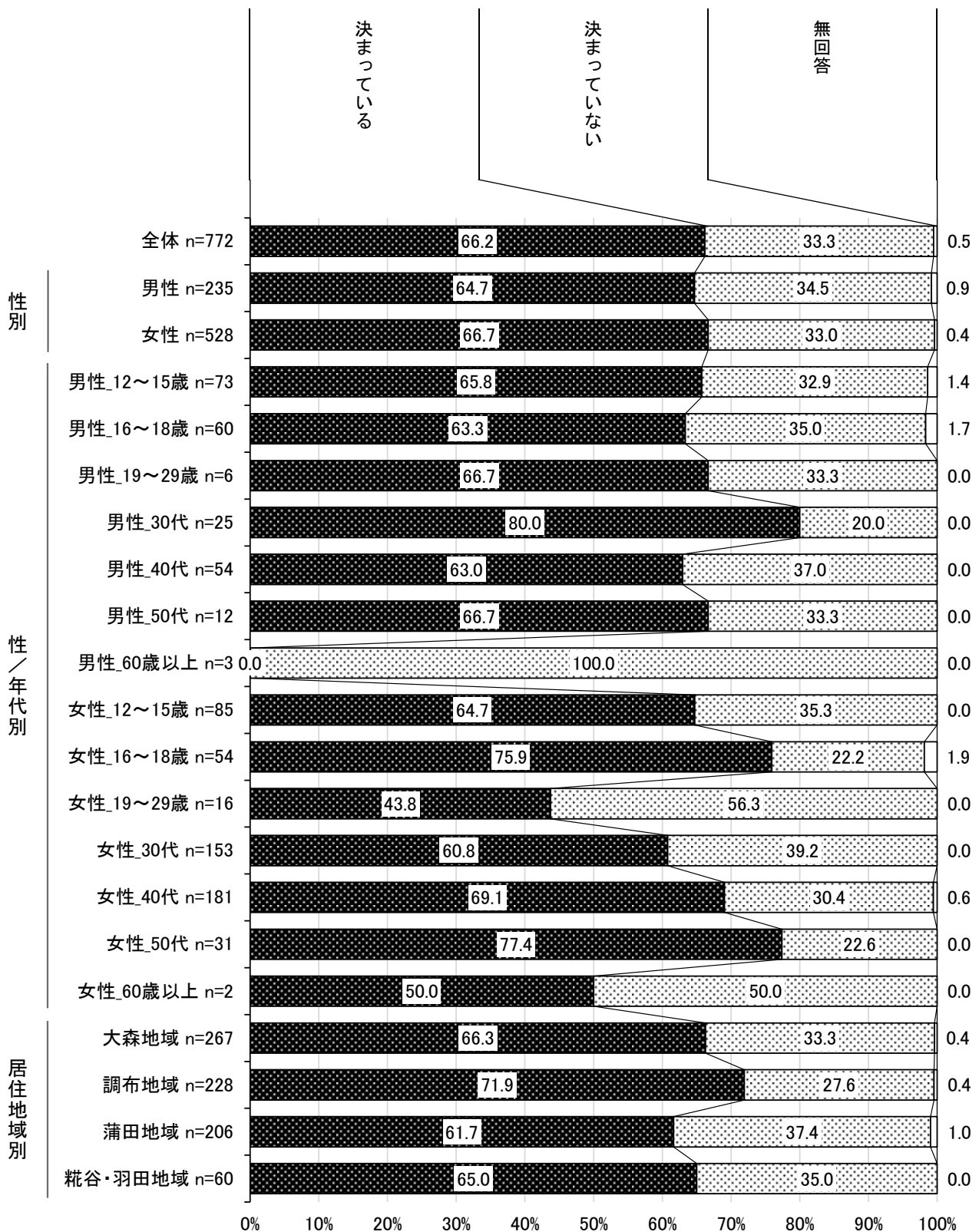


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、大きな差はみられない。

性／年代別でみると、「決まっている」は女性 50 代で 7 割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、「決まっている」は調布地域で 7 割前半と高くなっている。



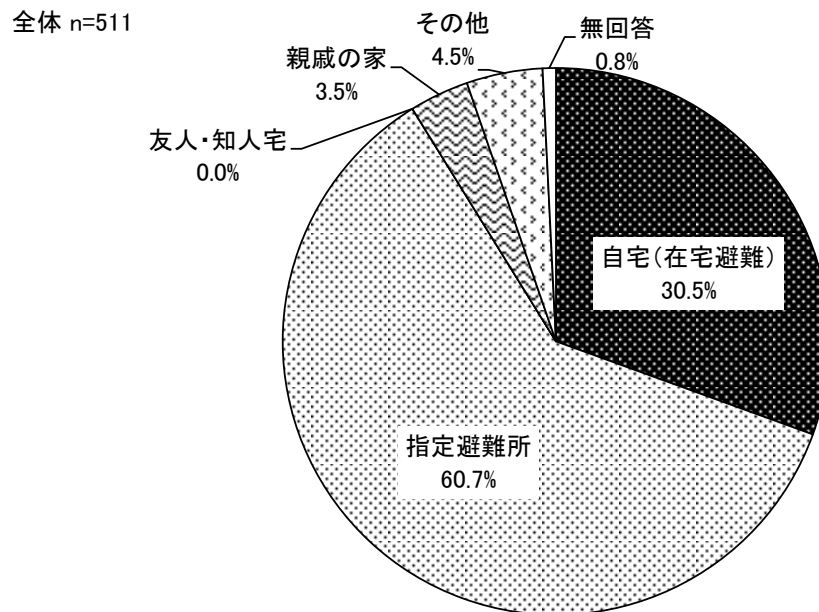
(2) 災害時の避難先

◇「指定避難所」が約6割となっている

【問8で「決まっている」と回答した方に伺います。】

問8-1 避難先はどこですか。(1つのみ)

災害時の避難先については、「指定避難所」が60.7%で最も高く、次いで「自宅(在宅避難)」が30.5%、「親戚の家」が3.5%となっている。

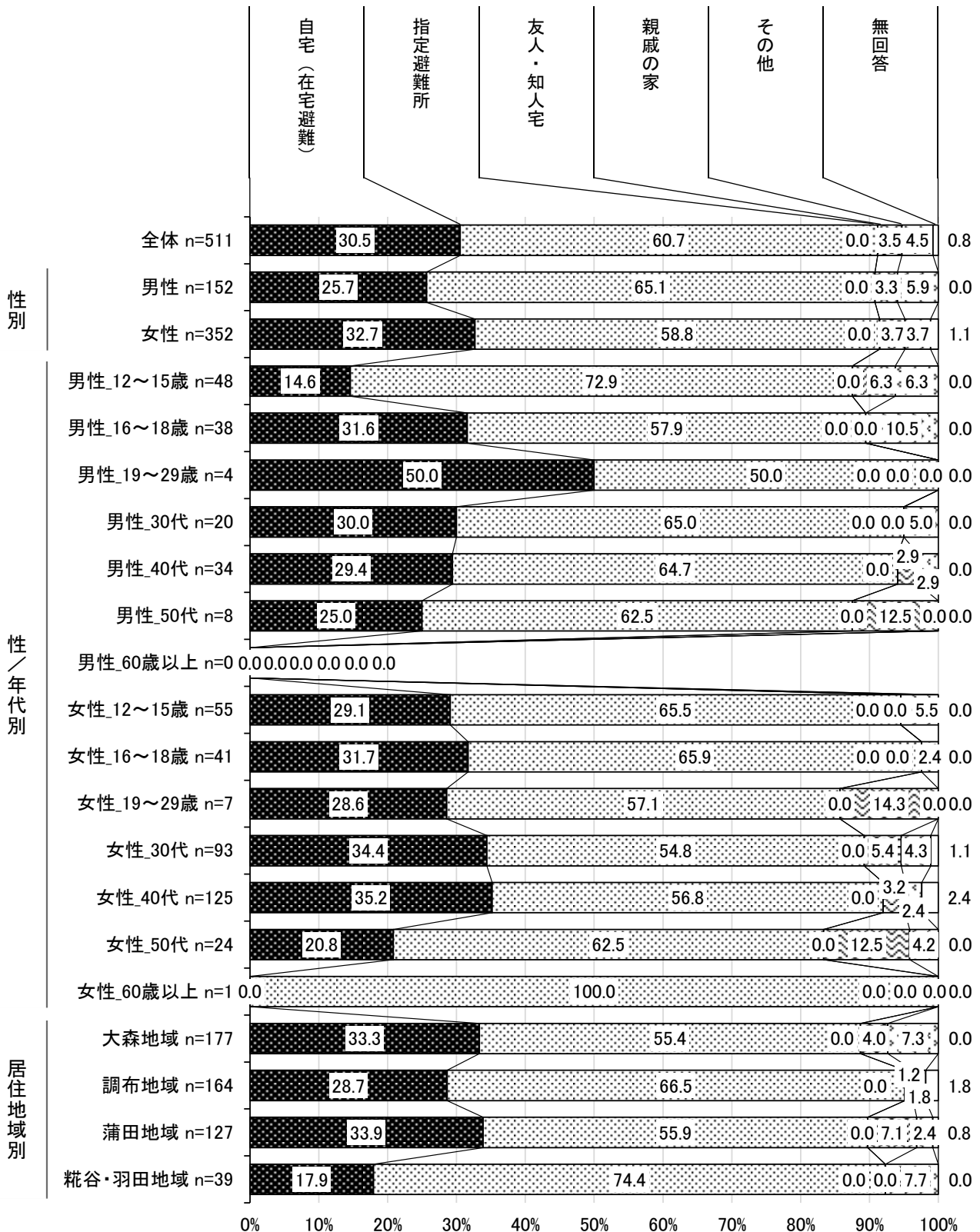


■性別・性/年代別・居住地域別

性別でみると、「自宅（在宅避難）」は男性が25.7%、女性が32.7%と、女性が7.0ポイント上回っている。「指定避難所」は男性が65.1%、女性が58.8%と、男性が6.3ポイント上回っている。

性/年代別でみると、「自宅（在宅避難）」は女性30代、女性40代で3割半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、「自宅（在宅避難）」は大森地域、蒲田地域で3割前半と高くなっている。「指定避難所」は糎谷・羽田地域で7割半ばと高くなっている。



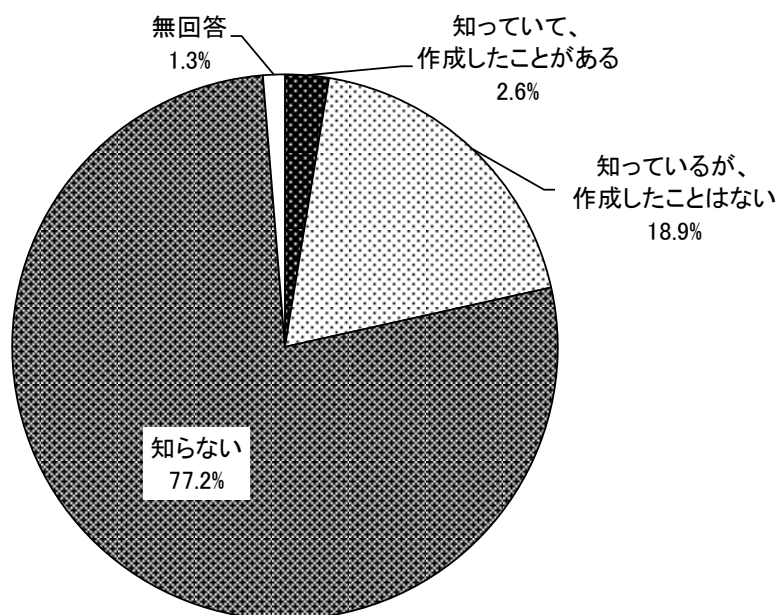
(3) 「マイ・タイムライン」の認知度

◇ 《知っている》（「知っていて、作成したことがある」、「知っているが、作成したことはない」の合計値）は2割前半となっている

問9 あなたは「マイ・タイムライン」を知っていますか。（1つのみ）

“マイ・タイムライン”の認知度については、「知っていて、作成したことがある」、「知っているが、作成したことはない」の合計値《知っている》が21.5%である一方で、「知らない」が77.2%と、「知らない」が55.7ポイント上回っている。

全体 n=772

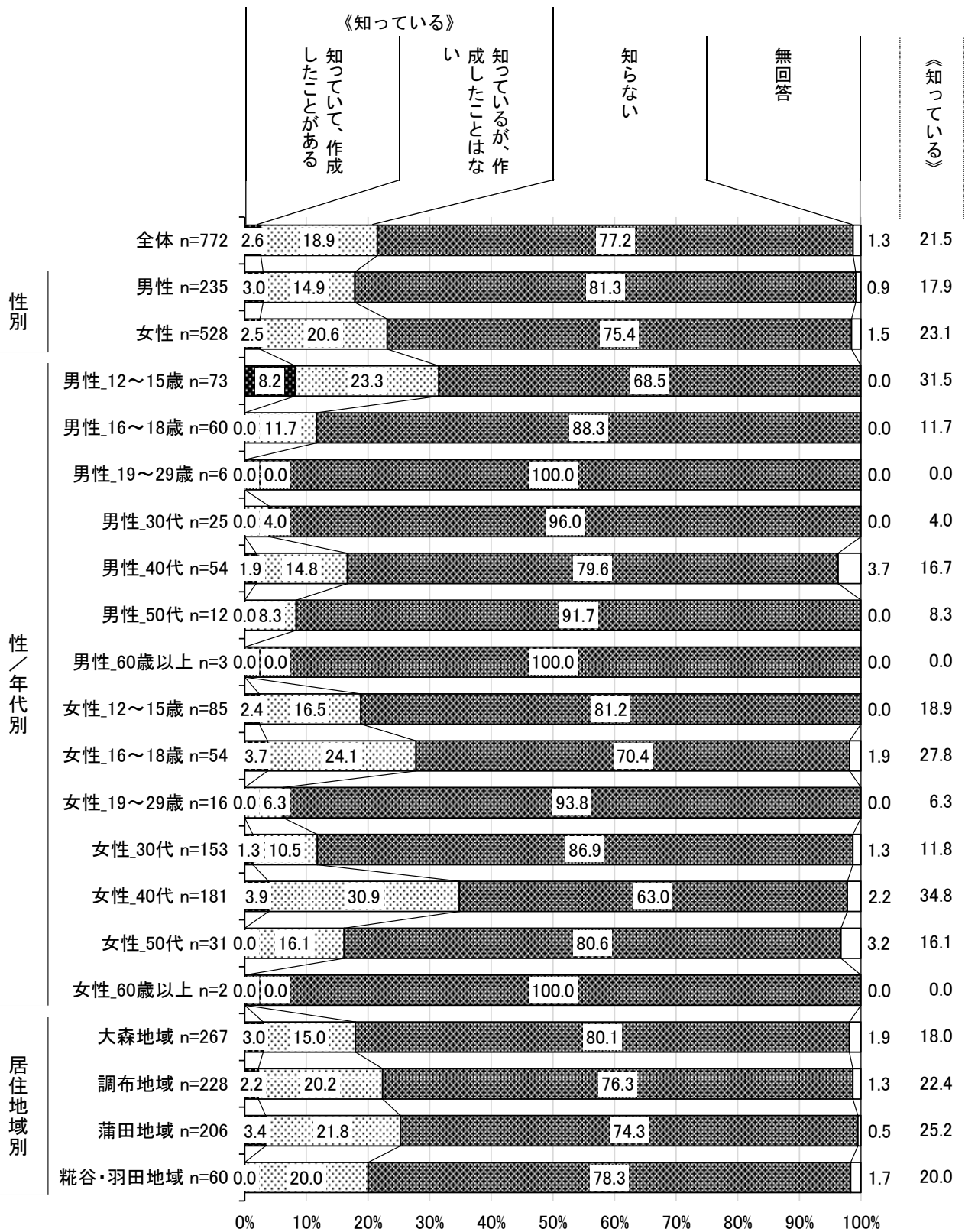


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、《知っている》は男性が17.9%、女性が23.1%と、女性が5.2ポイント上回っている。

性／年代別でみると、《知っている》は女性40代で3割半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、《知っている》は蒲田地域で2割半ばと高くなっている。



(4) 「マイ・タイムライン」の作成方法

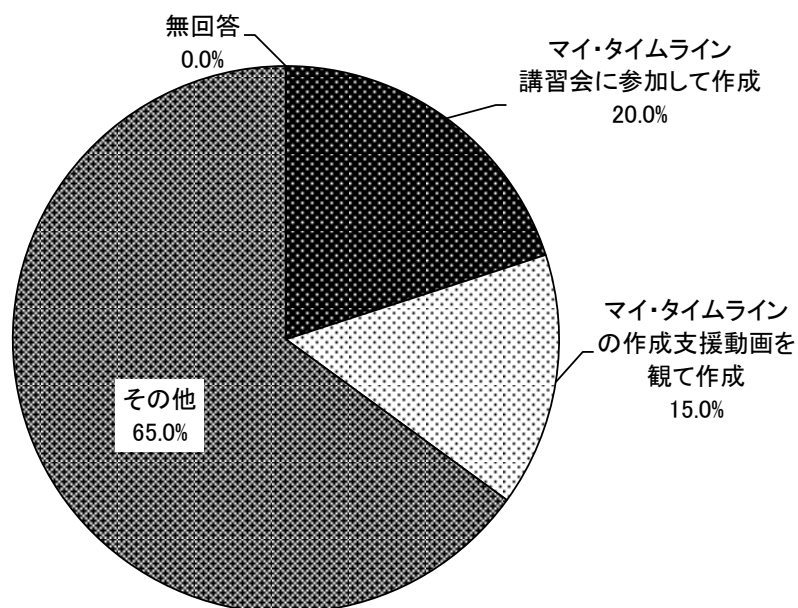
◇「マイ・タイムライン講習会に参加して作成」が2割となっている

【問9で「知っていて、作成したことがある」と回答した方に伺います。】

問9-1 どのように作成しましたか。(1つのみ)

“マイ・タイムライン”の作成方法については、「マイ・タイムライン講習会に参加して作成」が20.0%で最も高く、次いで「マイ・タイムラインの作成支援動画を観て作成」が15.0%となっている。

全体 n=20



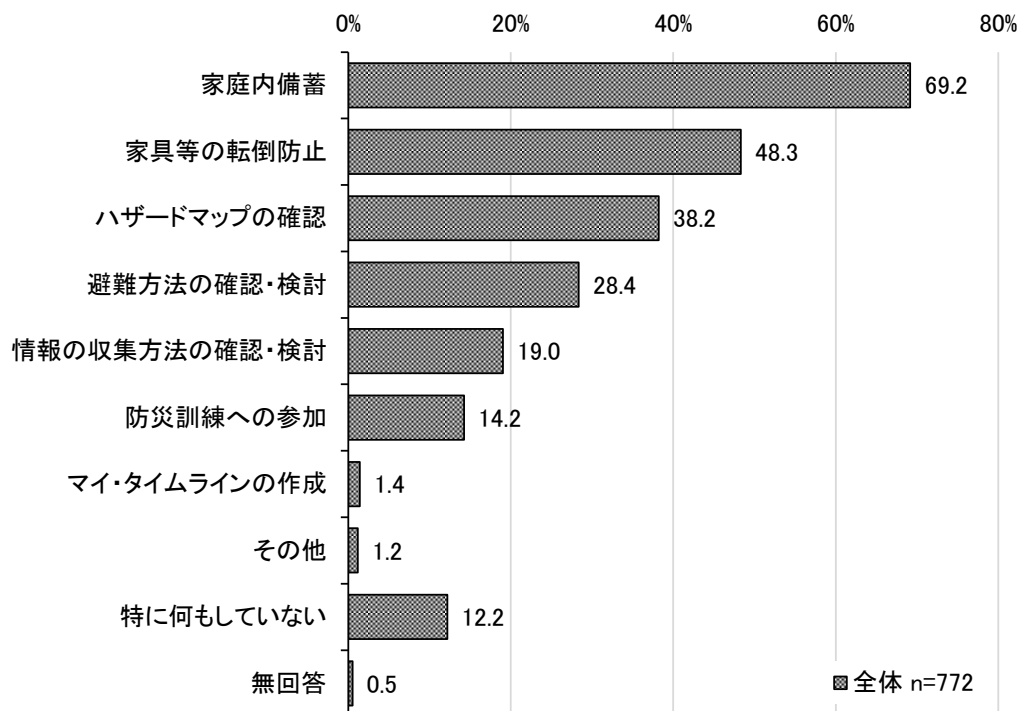
(5) 災害から自身を守るための取組

◇「家庭内備蓄」が約7割で最も高くなっている

問 10 災害から自身を守るためにどのような取り組みをしていますか。(いくつでも)

災害から自身を守るための取組については、「家庭内備蓄」が69.2%で最も高く、次いで「家具等の転倒防止」が48.3%、「ハザードマップの確認」が38.2%となっている。

なお、「特に何もしていない」は12.2%となっている。

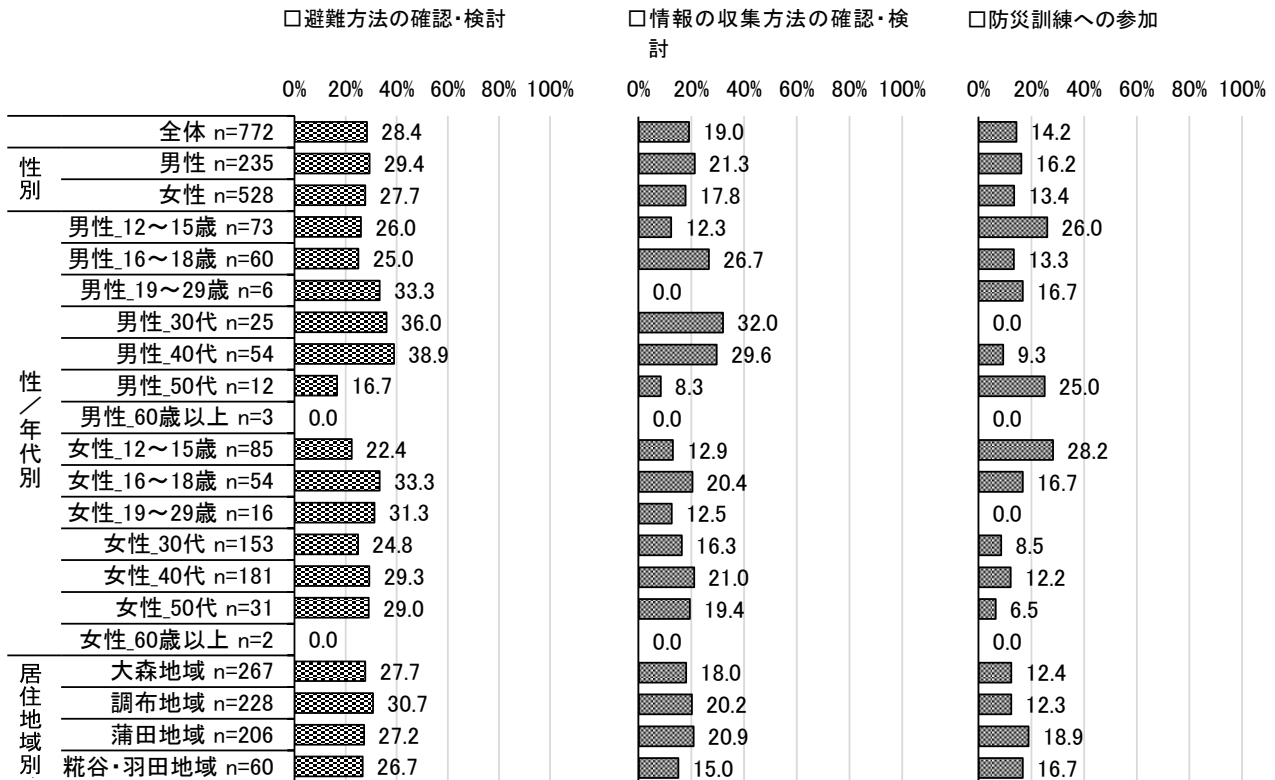
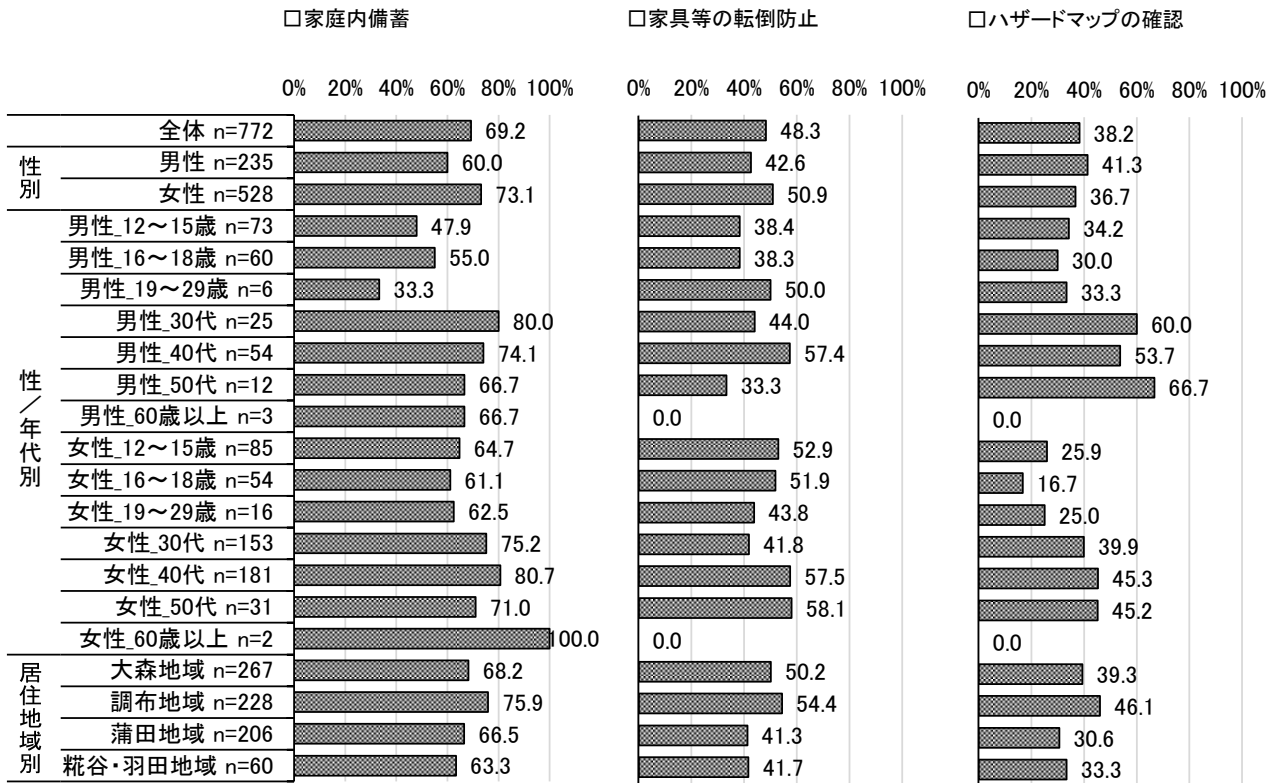


■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、男性、女性ともに「家庭内備蓄」が最も高く、男性が60.0%、女性が73.1%と、女性が13.1ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「家庭内備蓄」は女性40代で約8割と高くなっている。

居住地域別でみると、すべての地域で「家庭内備蓄」が最も高く、調布地域で7割半ばとなっている。

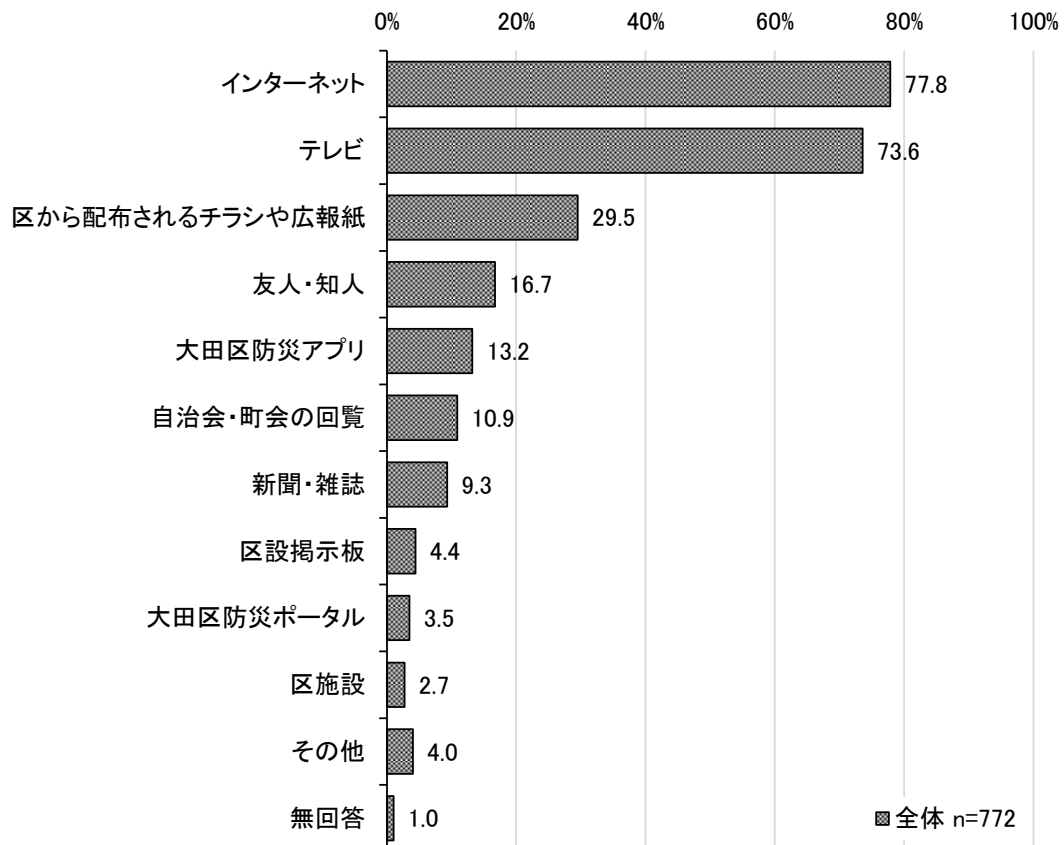


(6) 防災に関する情報の収集方法

◇「インターネット」が7割後半で最も高くなっている

問 11 防災に関する情報をどのように収集していますか。(いくつでも)

防災に関する情報の収集方法については、「インターネット」が77.8%で最も高く、次いで「テレビ」が73.6%、「区から配布されるチラシや広報紙」が29.5%となっている。

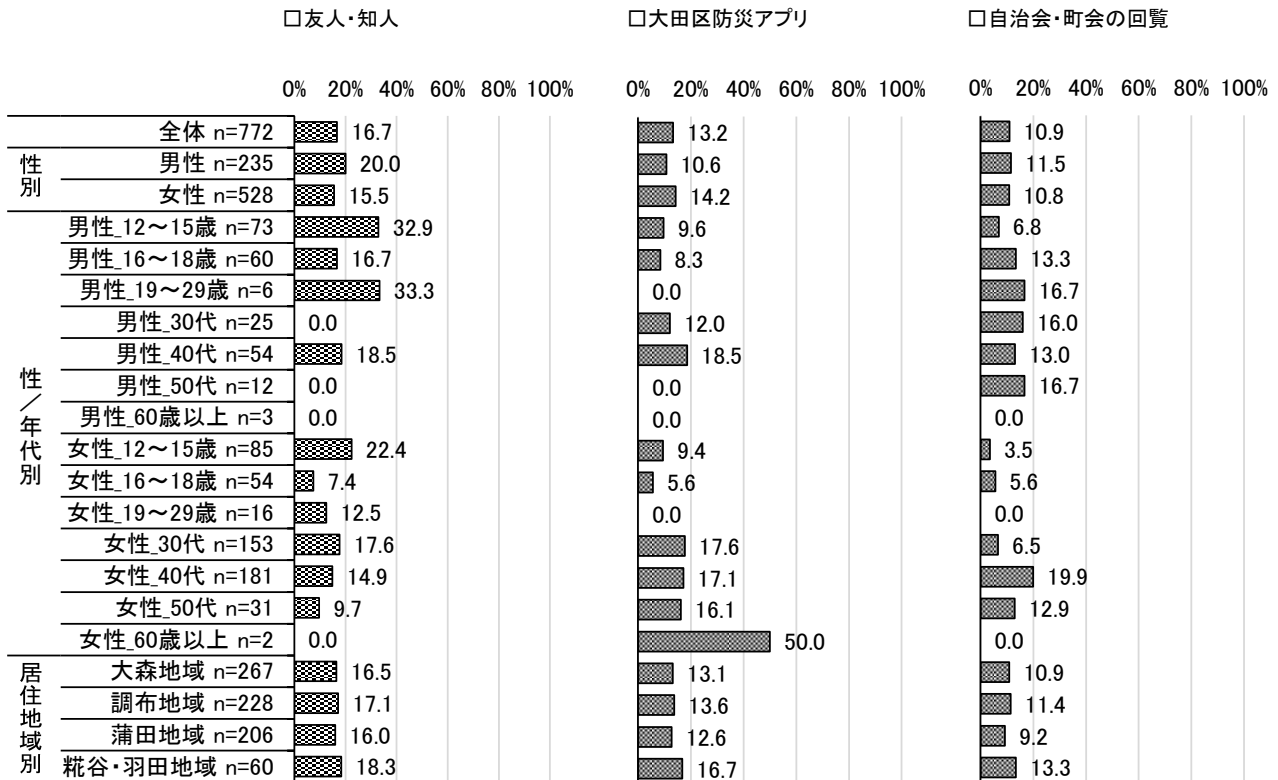
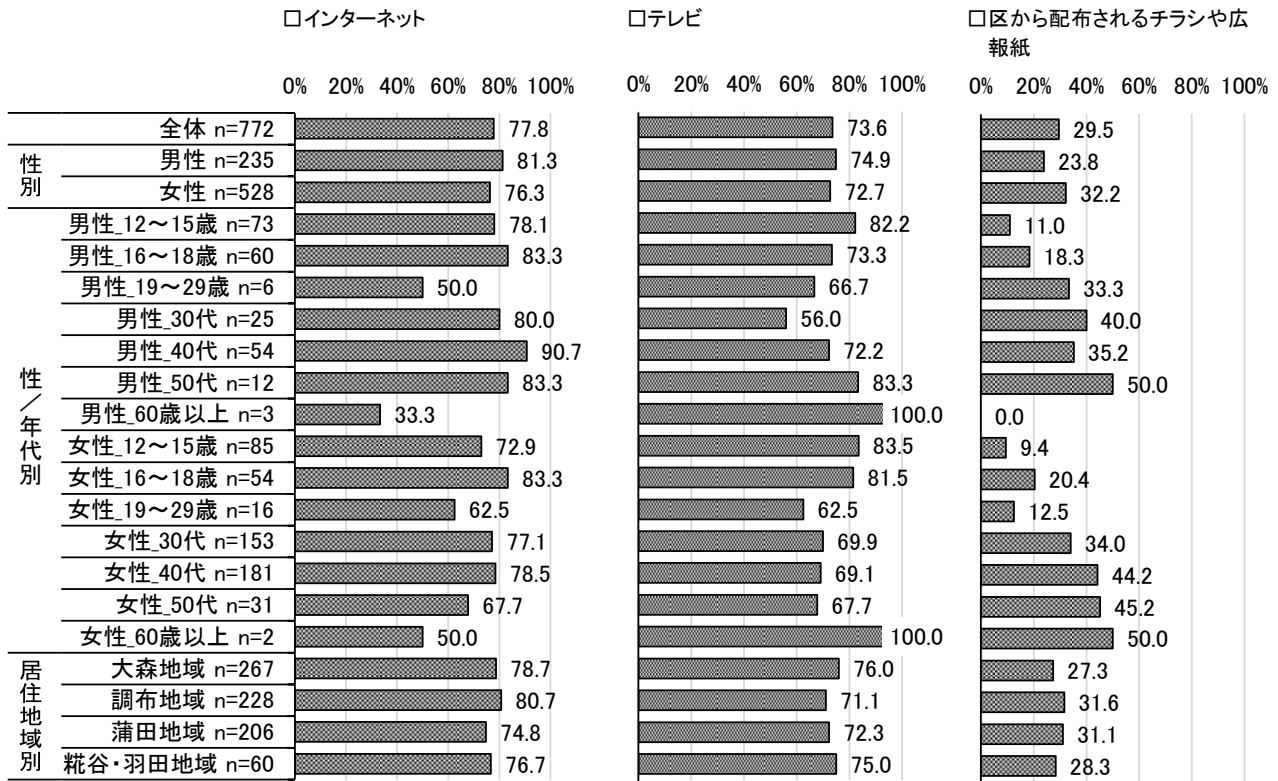


■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、男性、女性ともに「インターネット」が最も高く、男性が81.3%、女性が76.3%と、男性が5.0ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「インターネット」は男性40代で約9割と高くなっている。

居住地域別でみると、すべての地域で「インターネット」が最も高く、調布地域で約8割となっている。

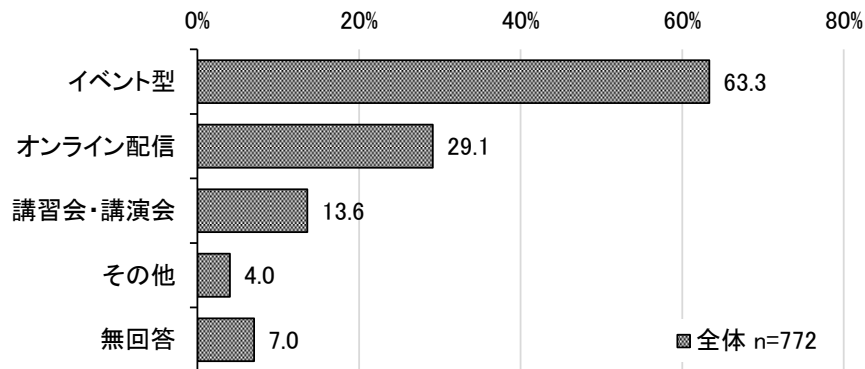


(7) 参加したいと思う防災訓練の形式

◇「イベント型」が6割前半で最も高くなっている

問 12 どのような防災訓練等に参加したいですか。(いくつでも)

参加したいと思う防災訓練の形式については、「イベント型」が63.3%で最も高く、次いで「オンライン配信」が29.1%、「講習会・講演会」が13.6%となっている。

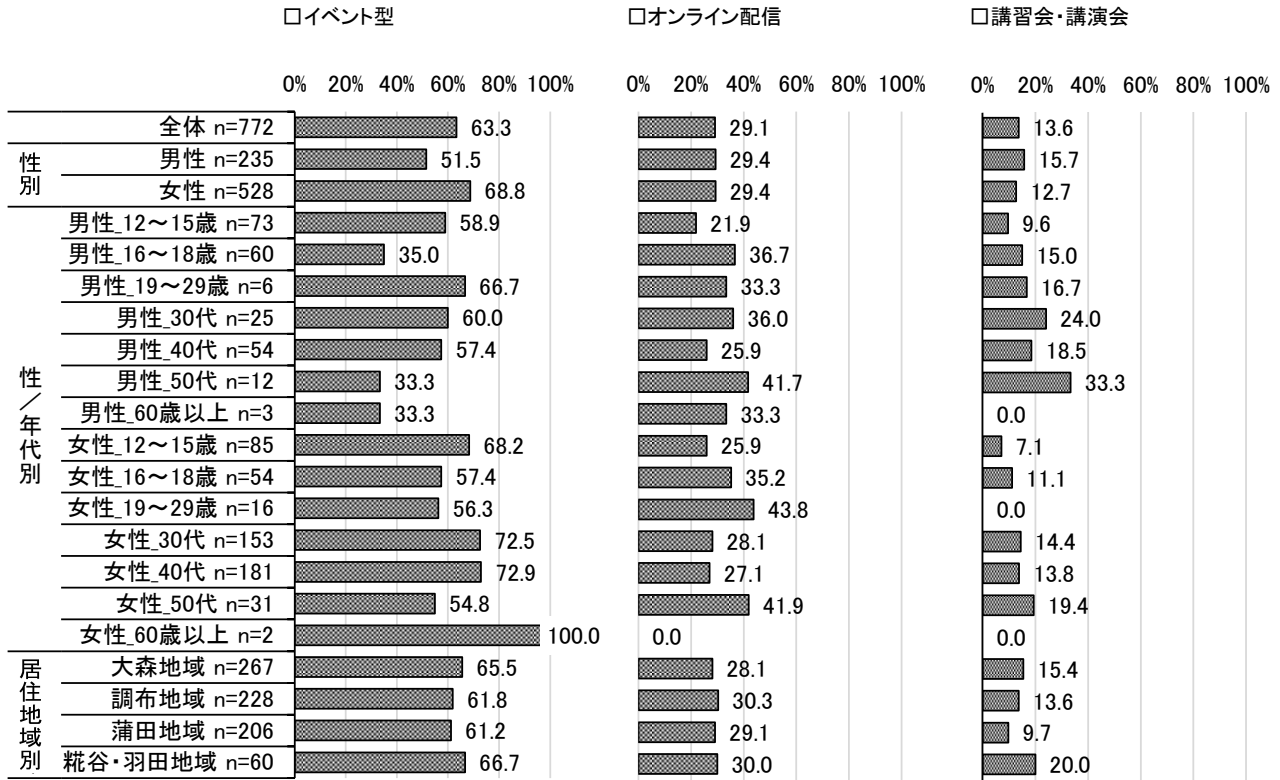


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、男性、女性ともに「イベント型」が最も高く、男性が51.5%、女性が68.8%と、女性が17.3ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「イベント型」は女性30代、女性40代で7割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、すべての地域で「イベント型」が最も高く、糀谷・羽田地域で6割後半となっている。



5 自転車の利用について

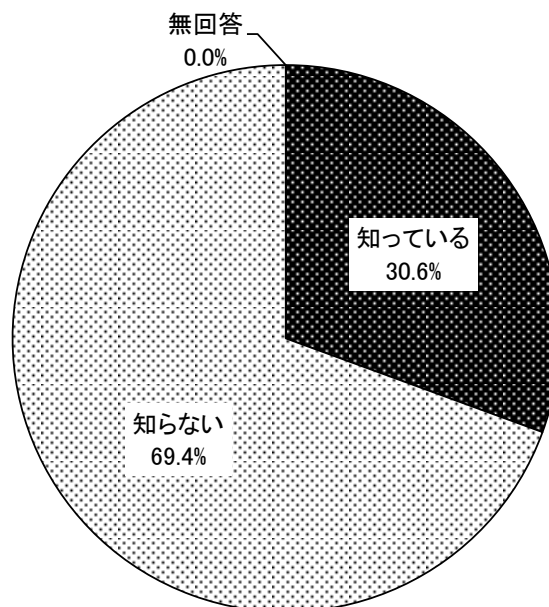
(1) 「コミュニティサイクル」の認知度

◇「知っている」は約3割となっている

**問 13 あなたは、大田区内で「コミュニティサイクル」が運営されていることを知っていますか。
(1つのみ)**

“コミュニティサイクル”の認知度については、「知っている」が30.6%、「知らない」が69.4%と、「知らない」が38.8ポイント上回っている。

全体 n=772

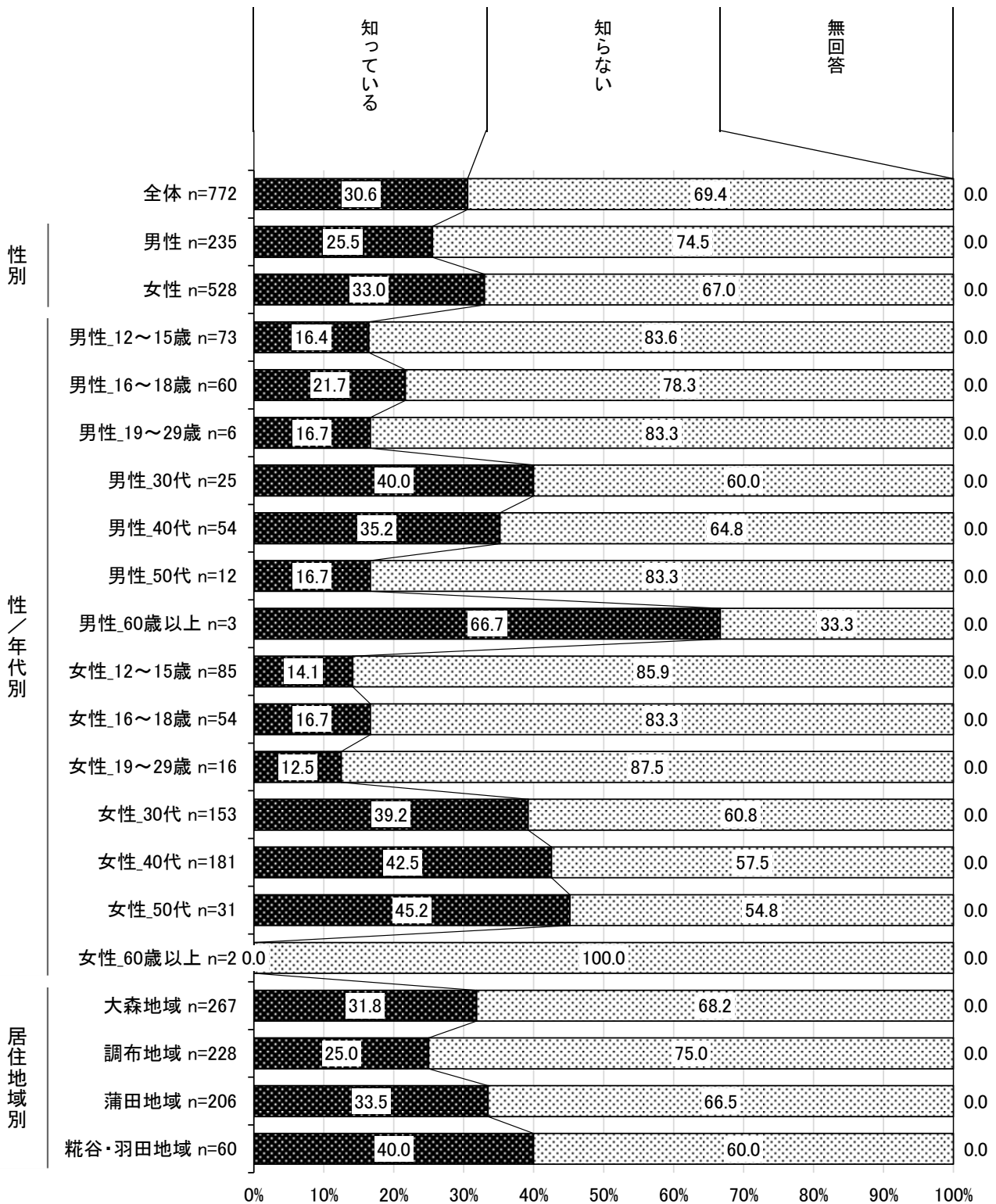


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「知っている」は男性が25.5%、女性が33.0%と、女性が7.5ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「知っている」は女性50代で4割半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、「知っている」は糞谷・羽田地域で4割と高くなっている。



(2) コミュニティサイクルの利用状況

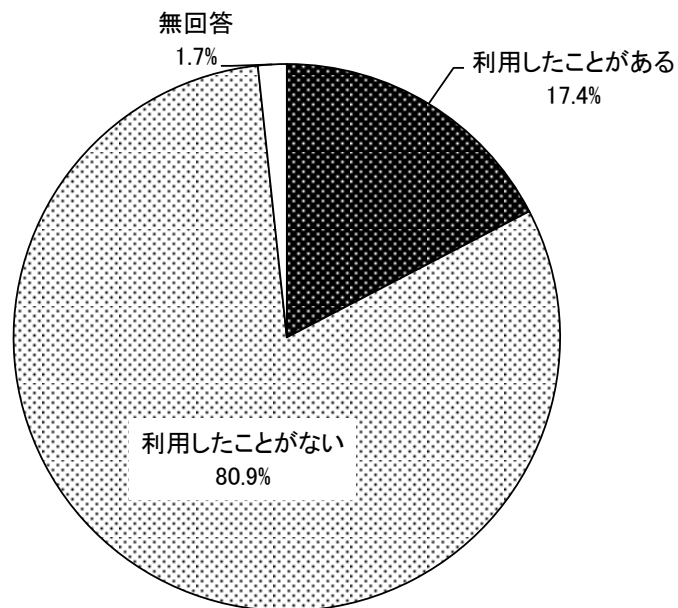
◇「利用したことがある」は1割後半となっている

【問 13 で「知っている」と回答した方に伺います。】

問 13-1 コミュニティサイクルを利用したことはありますか。(1つのみ)

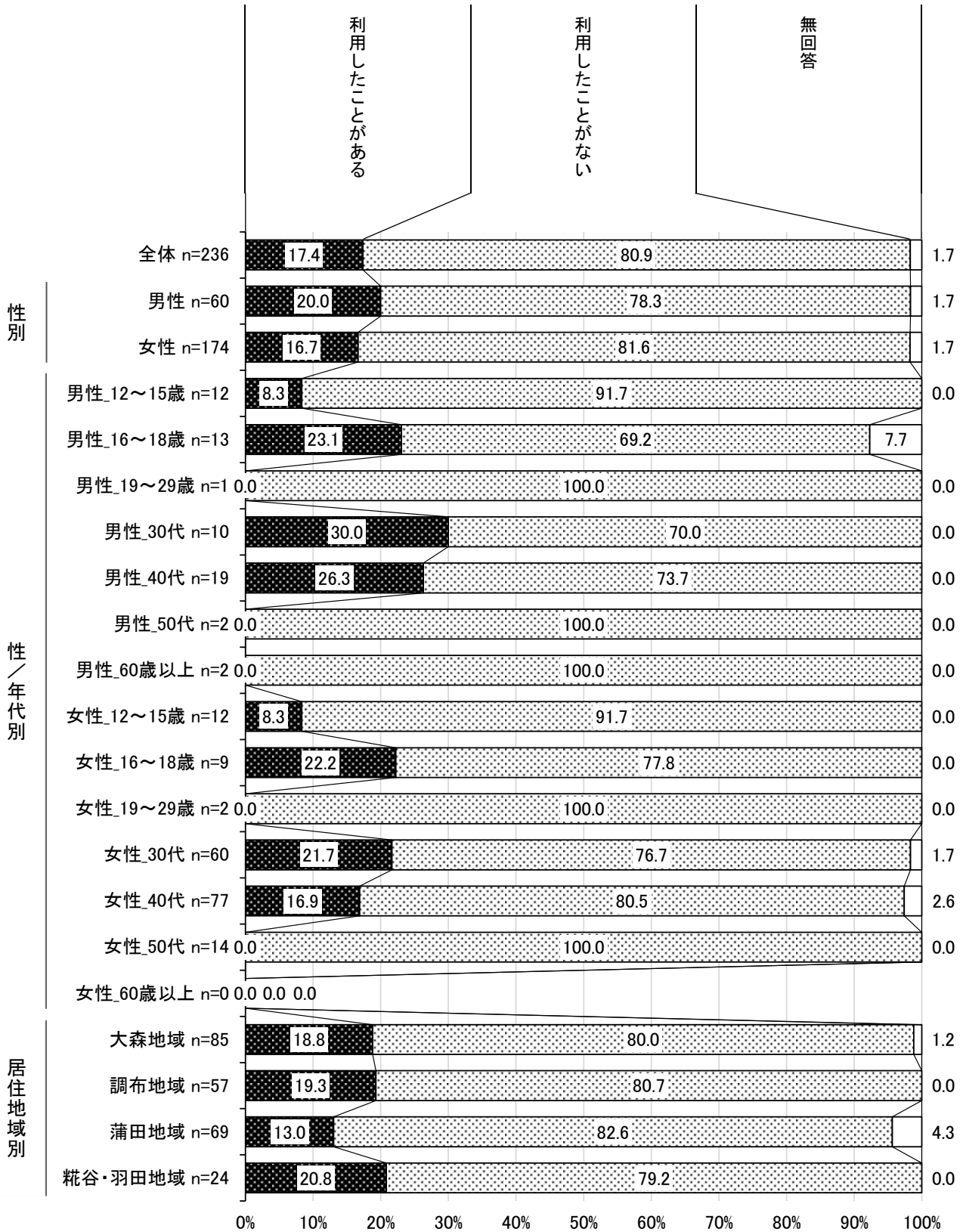
“コミュニティサイクル”の利用状況については、「利用したことがある」が17.4%、「利用したことがない」が80.9%と、「利用したことがない」が63.5ポイント上回っている。

全体 n=236



■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「利用したことがある」は男性が20.0%、女性が16.7%と、男性が3.3ポイント上回っている。



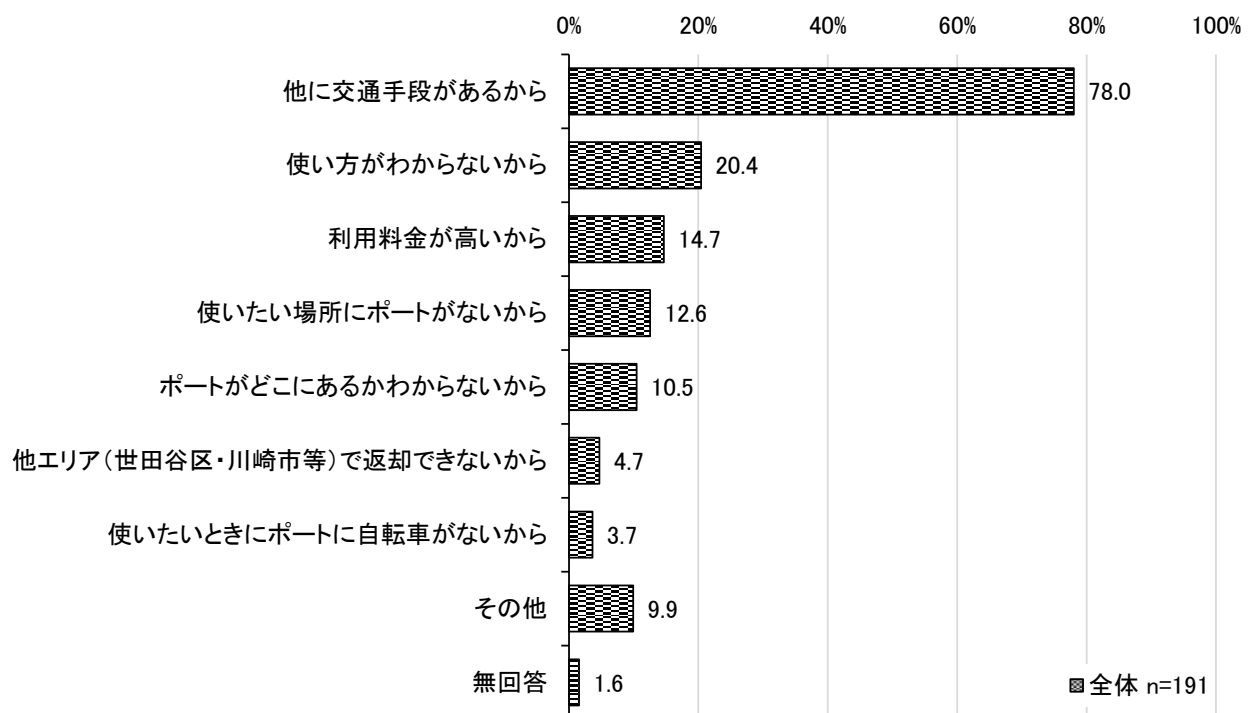
(3) コミュニティサイクルを利用したことがない理由

◇「他に交通手段があるから」が7割後半で最も高くなっている

【問 13-1で「利用したことがない」と回答した方に伺います。】

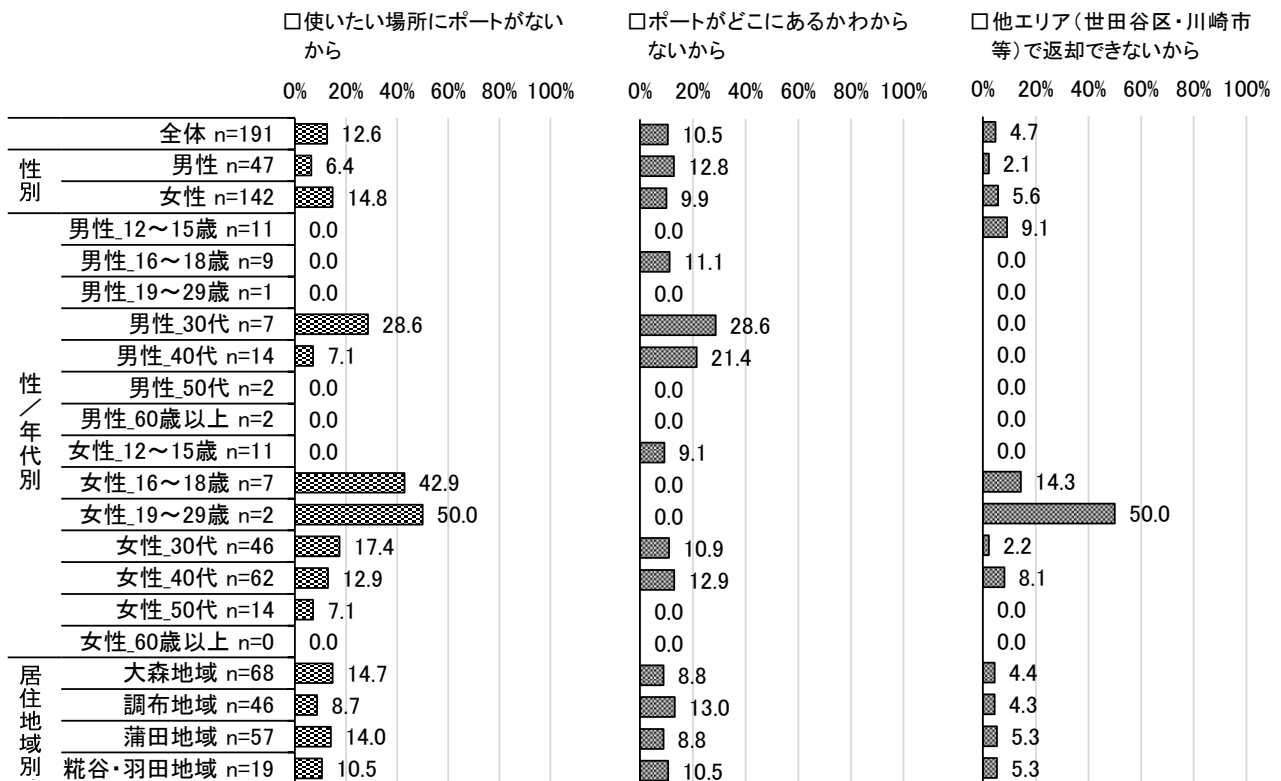
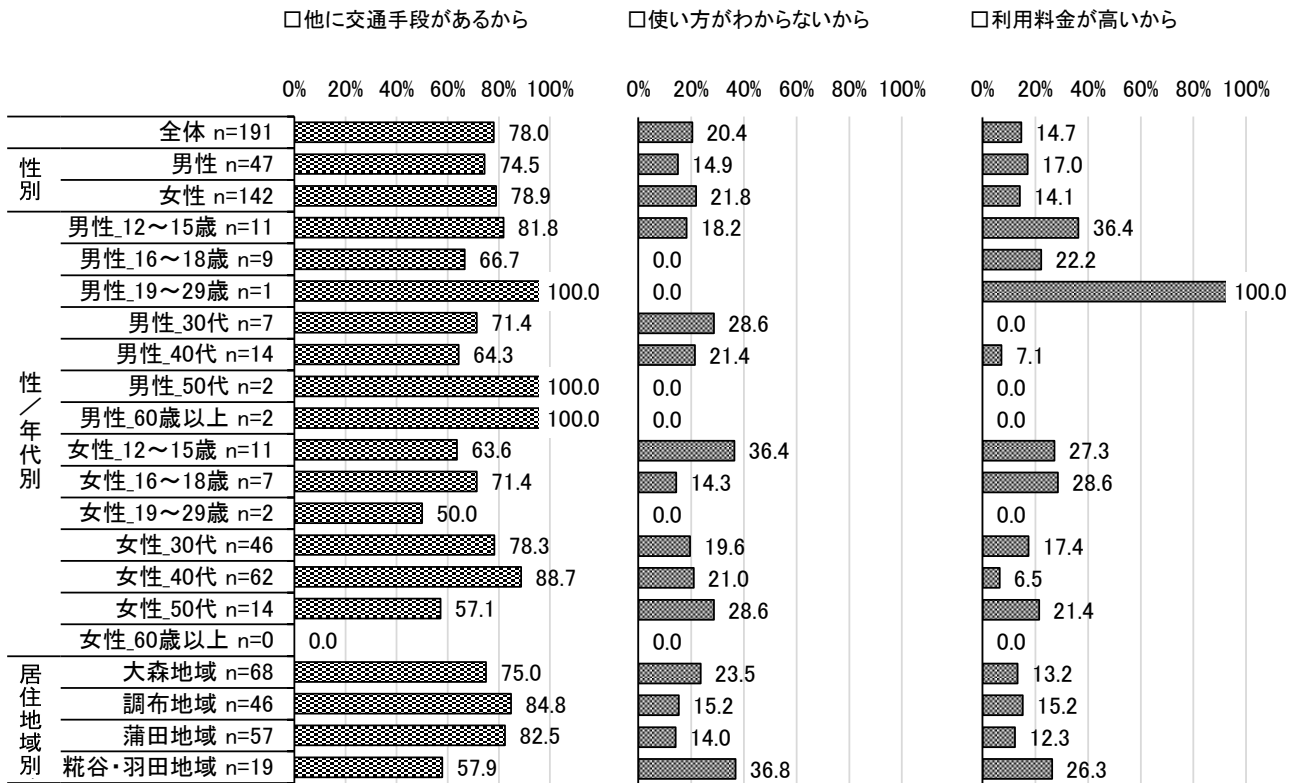
問 13-2 利用したことがない理由は何ですか。(いくつでも)

コミュニティサイクルを利用したことがない理由については、「他に交通手段があるから」が78.0%で最も高く、次いで「使い方がわからないから」が20.4%、「利用料金が高いから」が14.7%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、男性、女性ともに「他に交通手段があるから」が最も高く、男性が74.5%、女性が78.9%と、女性が4.4ポイント上回っている。

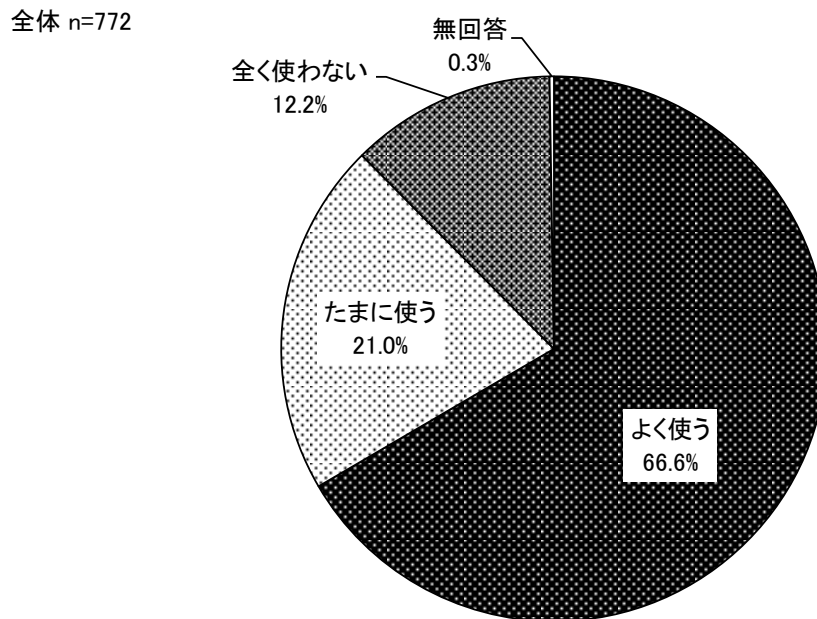


(4) 自転車の利用状況

◇「よく使う」は6割後半となっている

問 14 あなたは、普段から自転車を使いますか。(1つのみ)

自転車の利用状況については、「よく使う」が66.6%で最も高く、次いで「たまに使う」が21.0%、「全く使わない」が12.2%となっている。

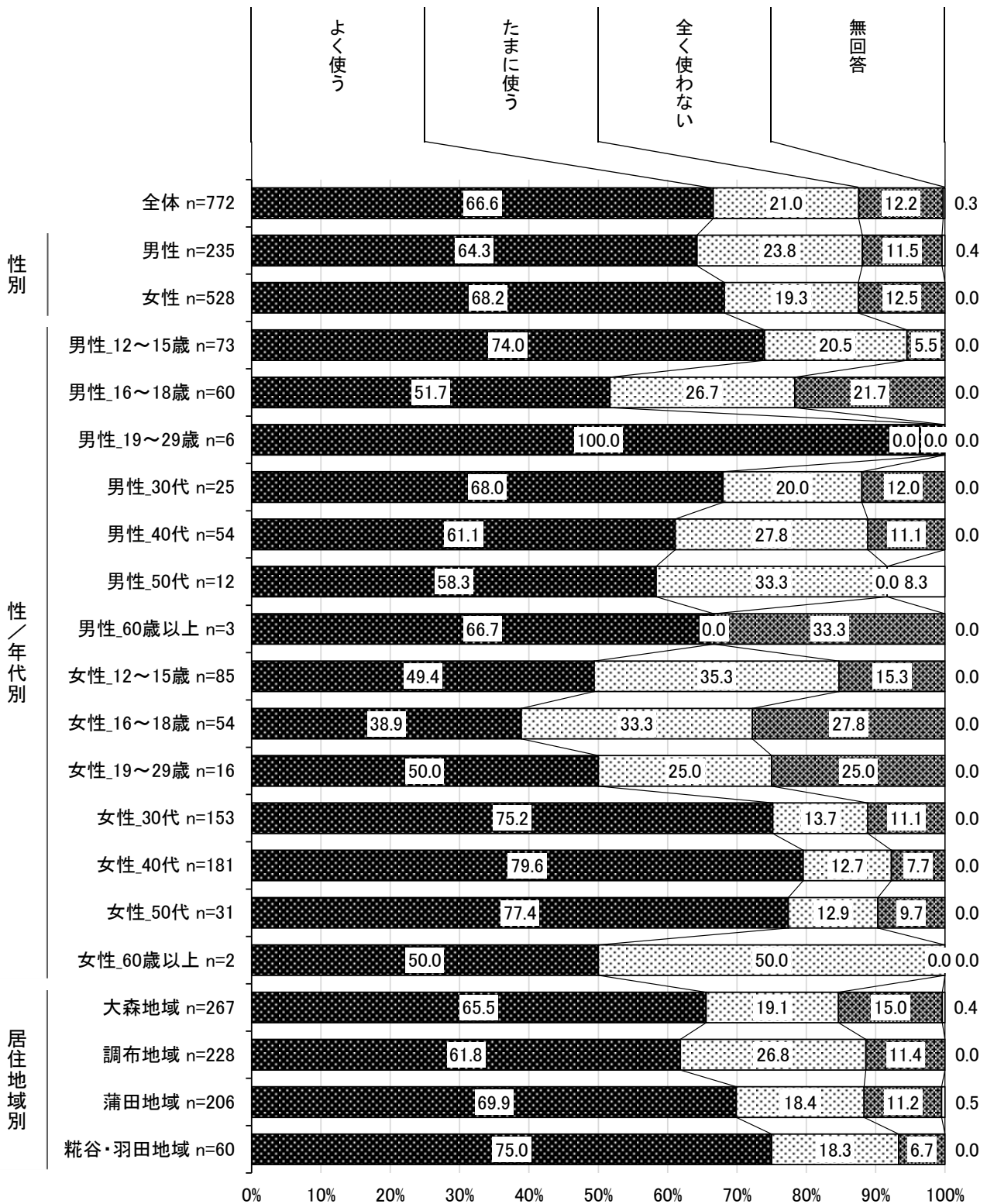


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「よく使う」は男性が64.3%、女性が68.2%と、女性が3.9ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「よく使う」は女性40代で約8割と高くなっている。

居住地域別でみると、「よく使う」は糀谷・羽田地域で7割半ばと高くなっている。



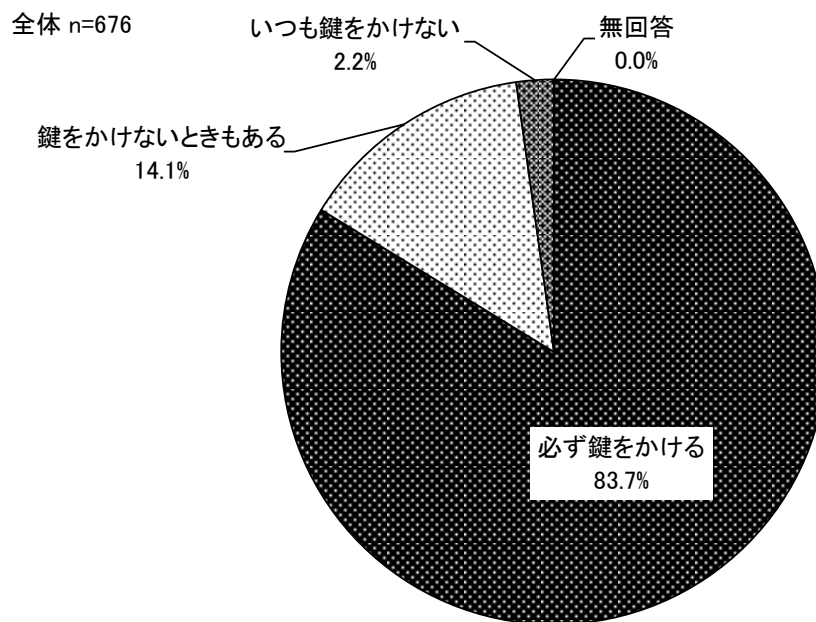
(5) 自転車の施錠状況

◇「必ず鍵をかける」は8割前半となっている

【問 14 で「よく使う」「たまに使う」と回答した方に伺います。】

問 14-1 あなたは、普段自転車から降りた後、鍵をかけますか。(1つのみ)

自転車の施錠状況については、「必ず鍵をかける」が83.7%で最も高く、次いで「鍵をかけないときもある」が14.1%、「いつも鍵をかけない」が2.2%となっている。

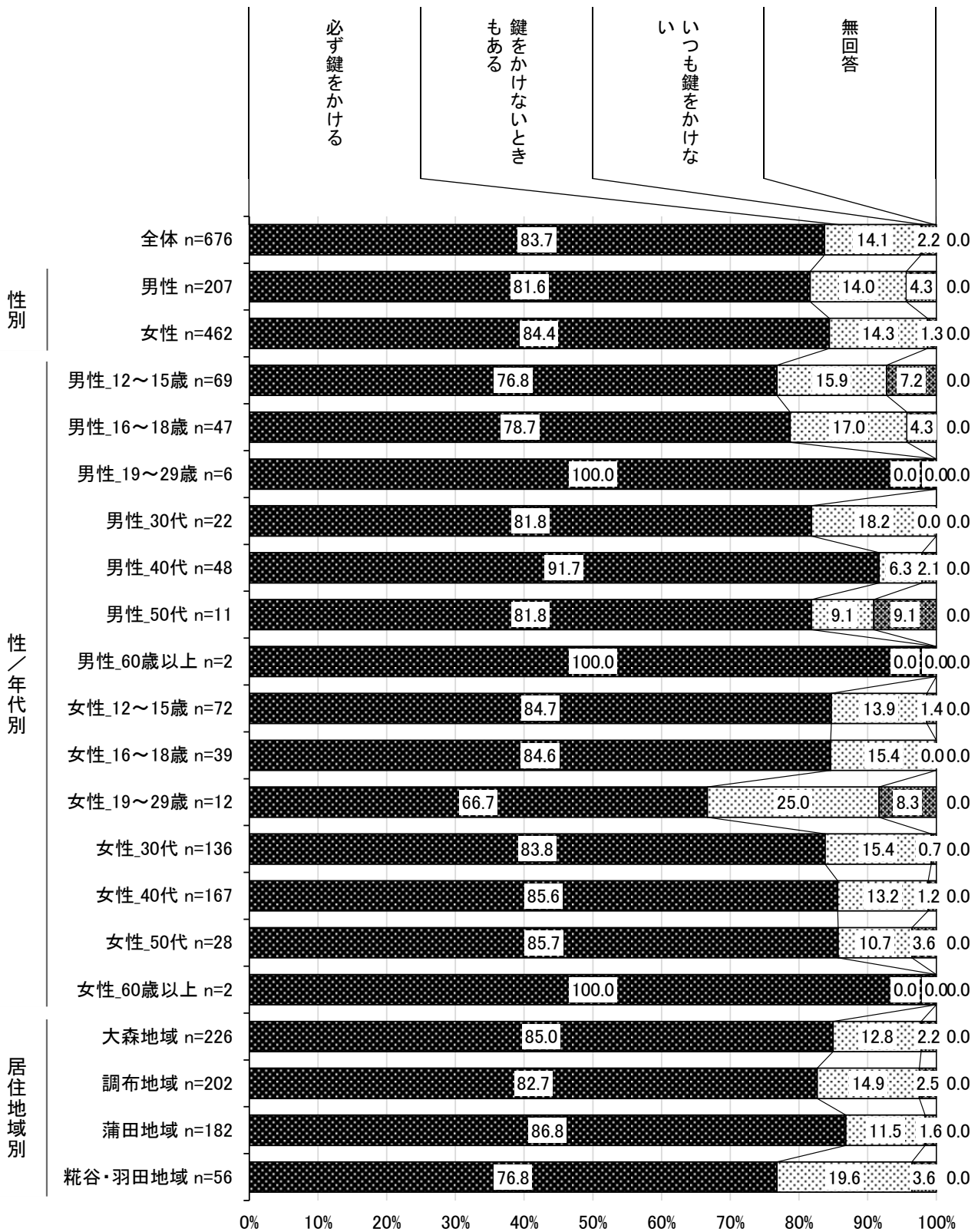


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、大きな差はみられない。

性／年代別でみると、「必ず鍵をかける」は男性40代で9割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、「必ず鍵をかける」は蒲田地域で8割後半と高くなっている。



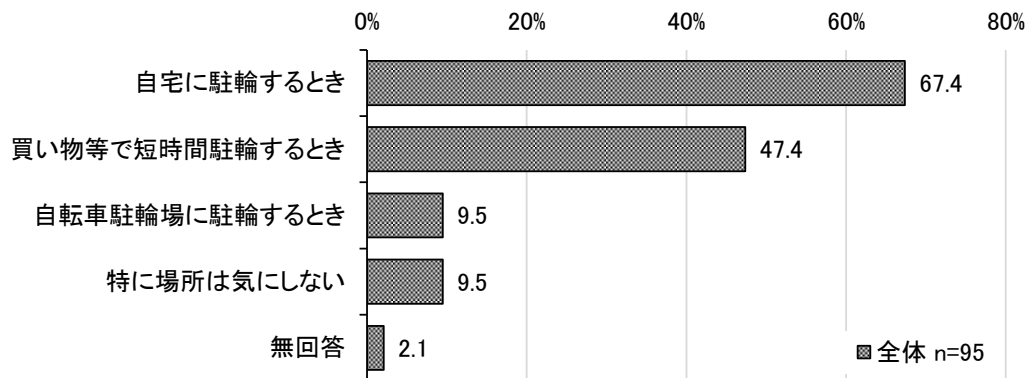
(6) 自転車を施錠しないときの状況

◇「自宅に駐輪するとき」が6割後半で最も高くなっている

【問 14-1 で「鍵をかけないときもある」と回答した方に伺います。】

問 14-2 あなたが自転車の鍵をかけないのはどのようなときですか。(いくつでも)

自転車を施錠しないときの状況については、「自宅に駐輪するとき」が67.4%で最も高く、次いで「買い物等で短時間駐輪するとき」が47.4%、「自転車駐輪場に駐輪するとき」、「特に場所は気にしない」がともに9.5%となっている。



(7) 区営駐輪場で不便に感じていること

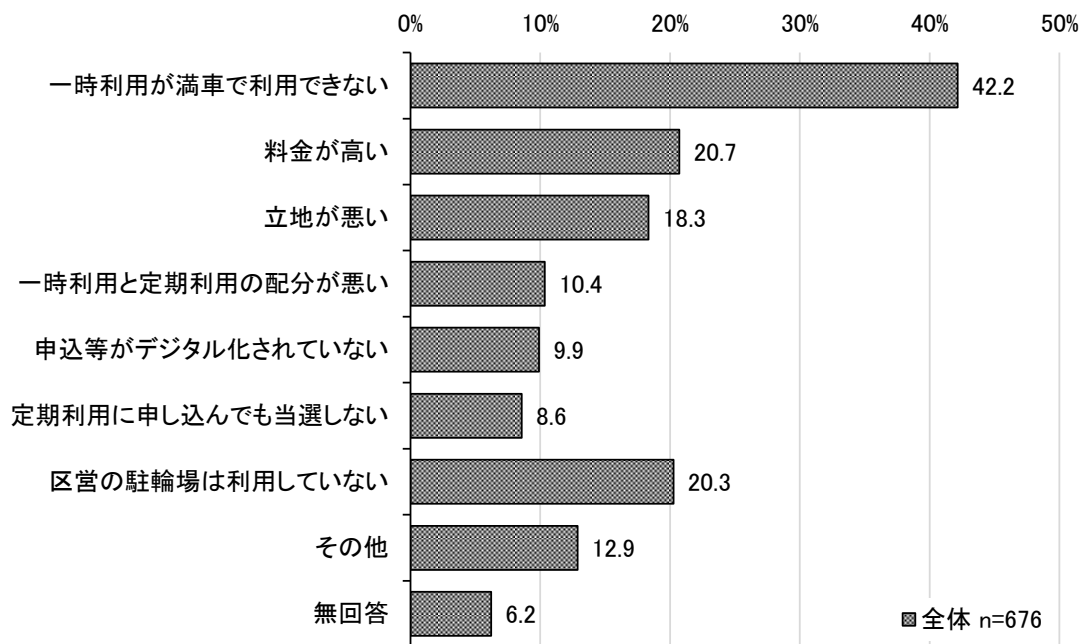
◇「一時利用が満車で利用できない」が4割前半で最も高くなっている

【問 14 で「よく使う」「たまに使う」と回答した方に伺います。】

**問 14-3 あなたが区営の駐輪場を利用する際に不便に感じていることは何ですか。
(いくつでも)**

区営駐輪場で不便に感じていることについては、「一時利用が満車で利用できない」が42.2%で最も高く、次いで「料金が低い」が20.7%、「立地が悪い」が18.3%となっている。

なお、「区営の駐輪場は利用していない」は20.3%となっている。

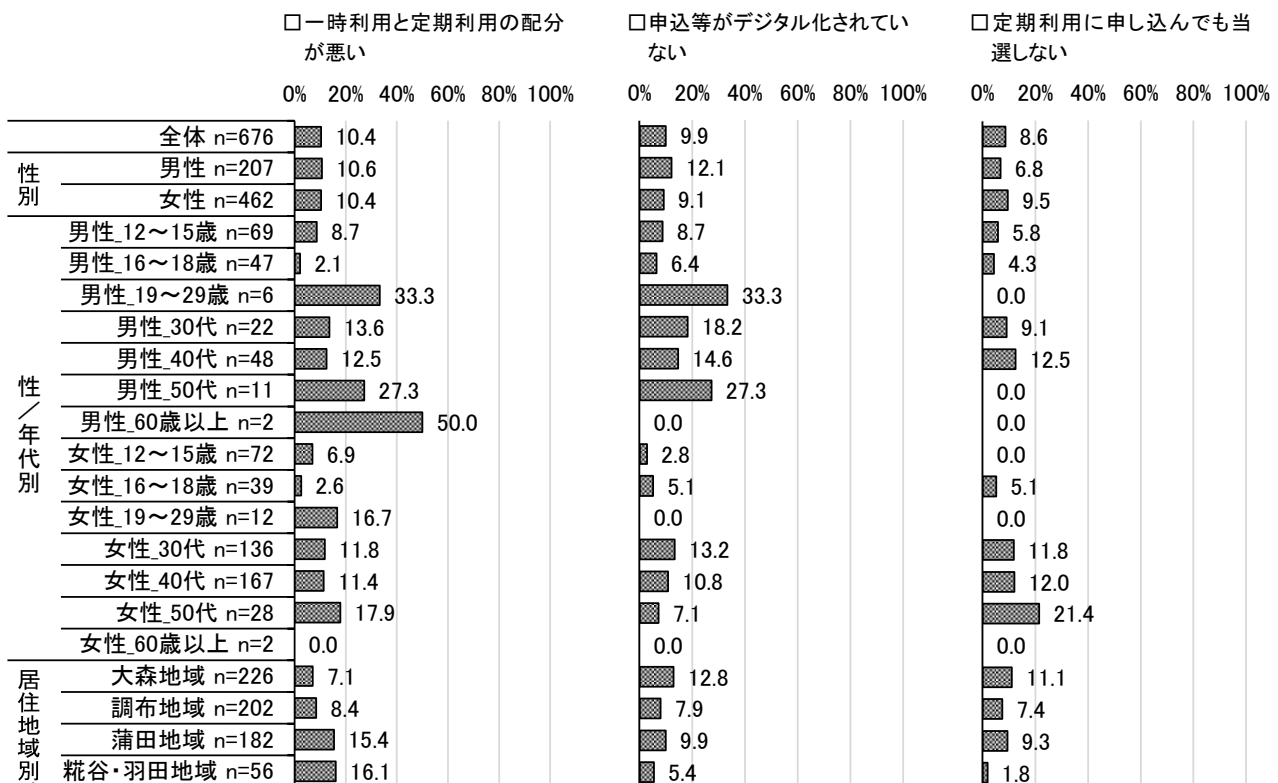
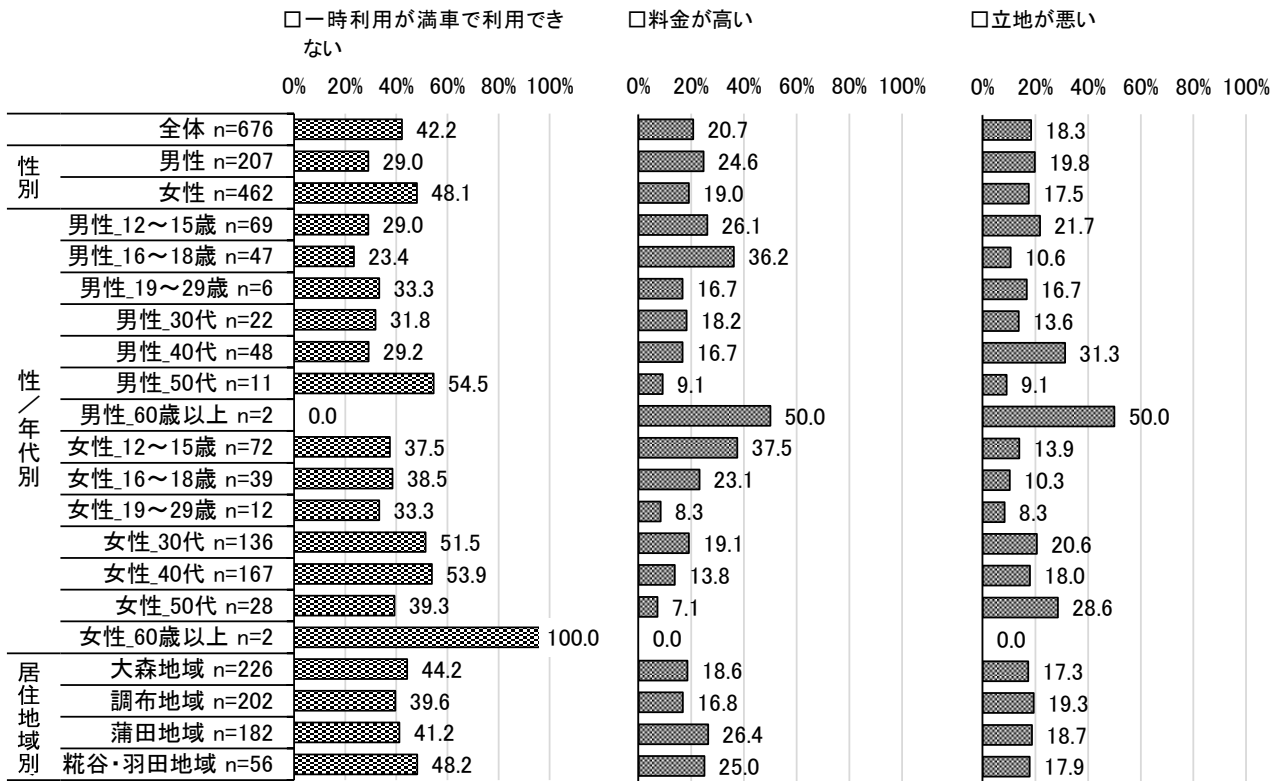


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、男性、女性ともに「一時利用が満車で利用できない」が最も高く、男性が 29.0%、女性が 48.1%と、女性が 19.1 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「一時利用が満車で利用できない」は女性 30 代、女性 40 代で 5 割前半と高くなっている。「料金が低い」は男性 16～18 歳、女性 12～15 歳で 3 割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、すべての地域で「一時利用が満車で利用できない」が最も高く、糎谷・羽田地域で 4 割後半となっている。



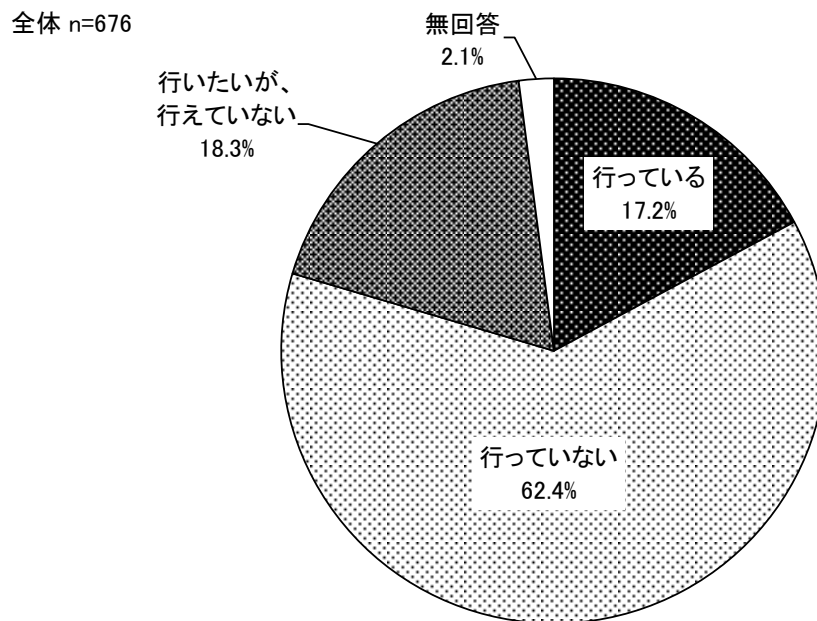
(8) サイクリングやサイクルスポーツの実施状況

◇「行っている」は1割後半となっている

【問 14 で「よく使う」「たまに使う」と回答した方に伺います。】

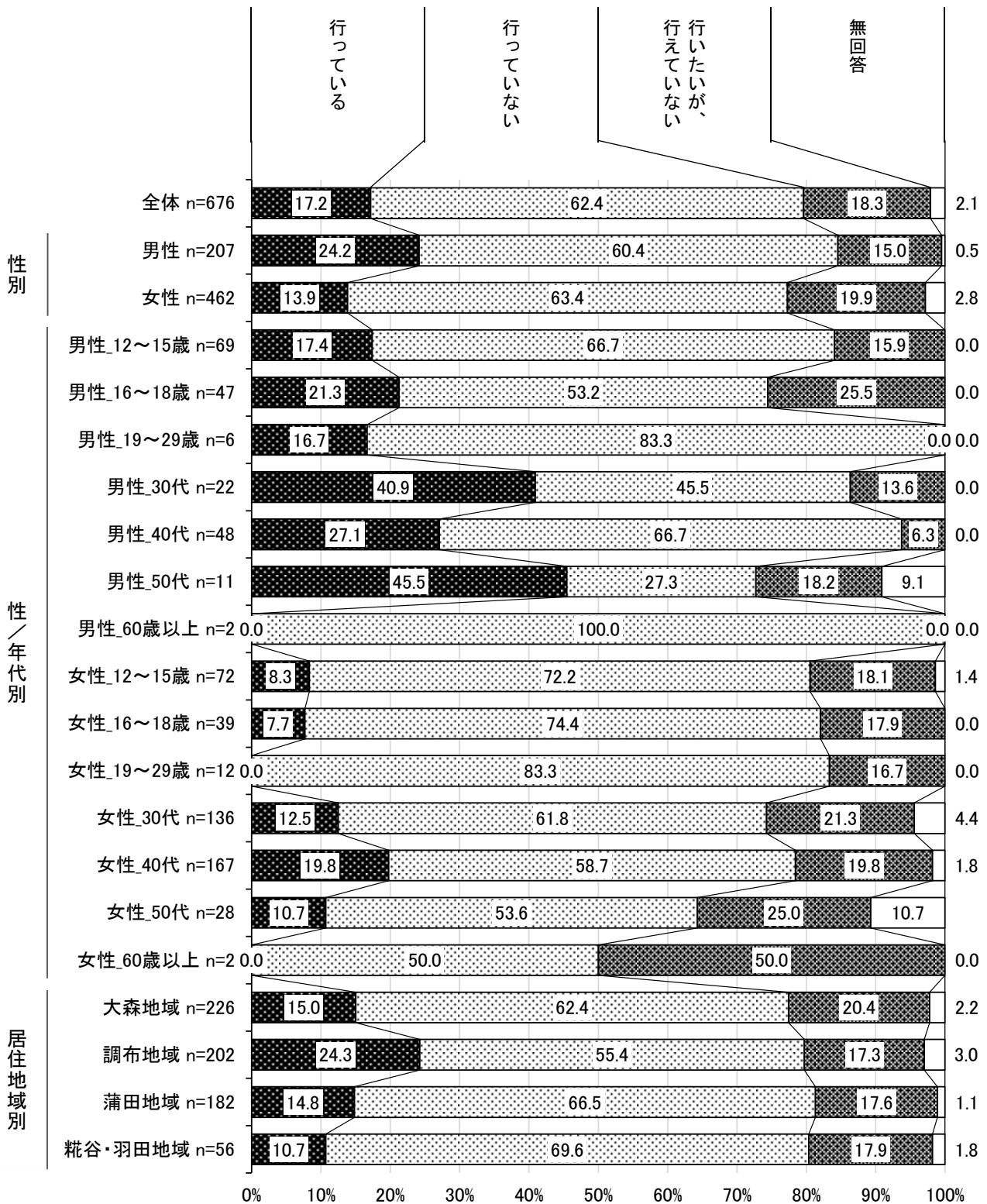
問 14-4 休日などの余暇時間があるときにサイクリングやサイクルスポーツを行っていますか。
(1つのみ)

サイクリングやサイクルスポーツの実施状況については、「行っていない」が62.4%で最も高く、次いで「行いたいですが、行えていない」が18.3%、「行っている」が17.2%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「行っている」は男性が24.2%、女性が13.9%と、男性が10.3ポイント上回っている。
 性／年代別でみると、「行っている」は男性40代で2割後半と高くなっている。
 居住地域別でみると、「行っている」は調布地域で2割半ばと高くなっている。



(9) 守れていないと思う交通ルール

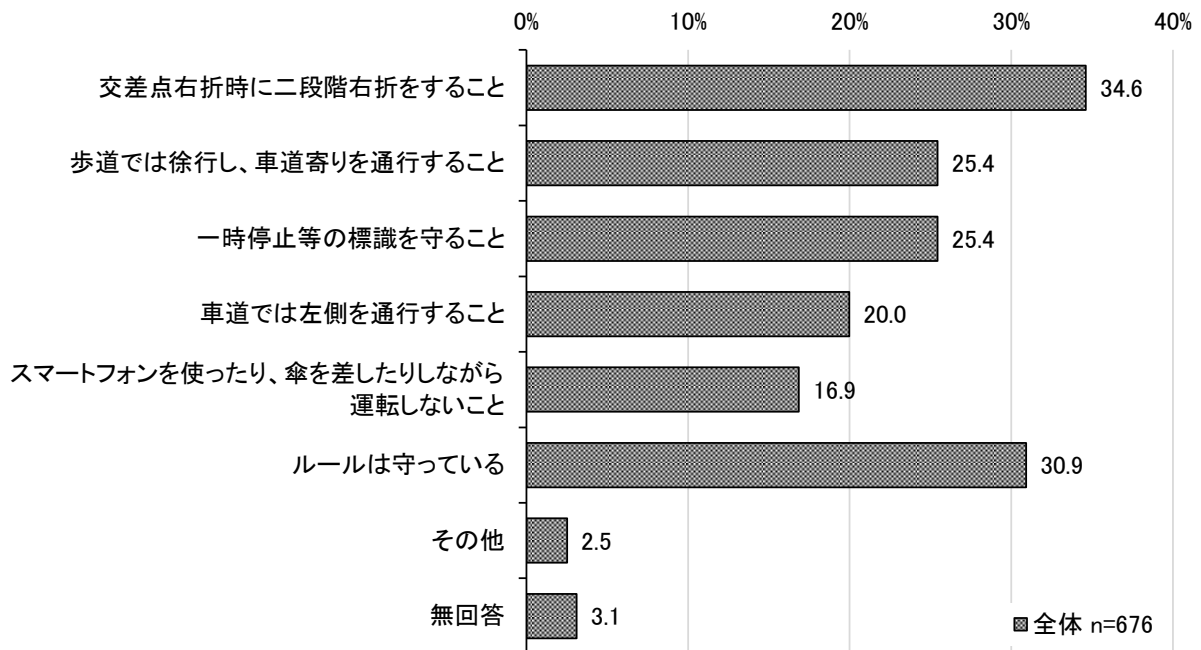
- ◇「交差点右折時に二段階右折をすること」が3割半ばで最も高くなっている
- ◇「ルールは守っている」は約3割となっている

【問 14 で「よく使う」「たまに使う」と回答した方に伺います。】

問 14-5 自転車に乗るときにご自身が守れていないと思う交通ルールは何ですか。(いくつでも)

守れていないと思う交通ルールについては、「交差点右折時に二段階右折をすること」が34.6%で最も高く、次いで「歩道では徐行し、車道寄りを通行すること」、「一時停止等の標識を守ること」がともに25.4%、「車道では左側を通行すること」が20.0%となっている。

なお、「ルールは守っている」は30.9%となっている。

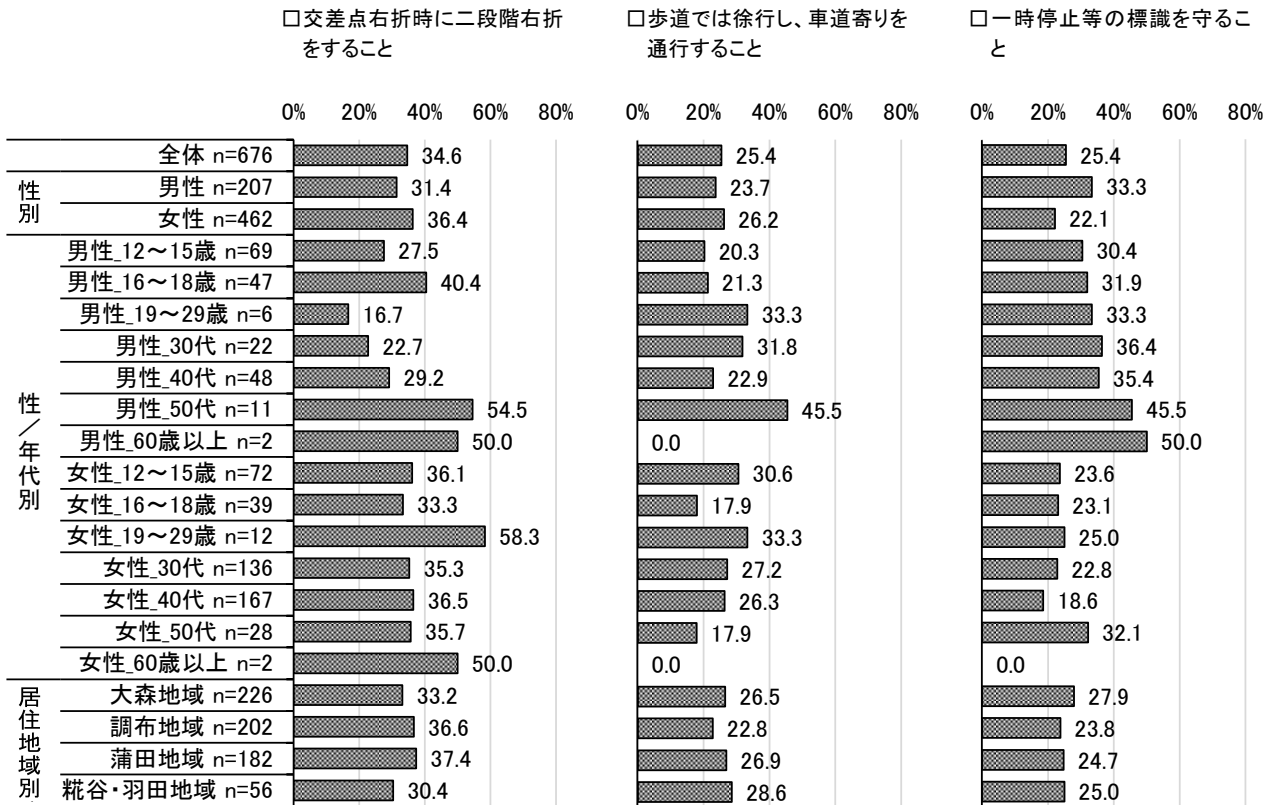


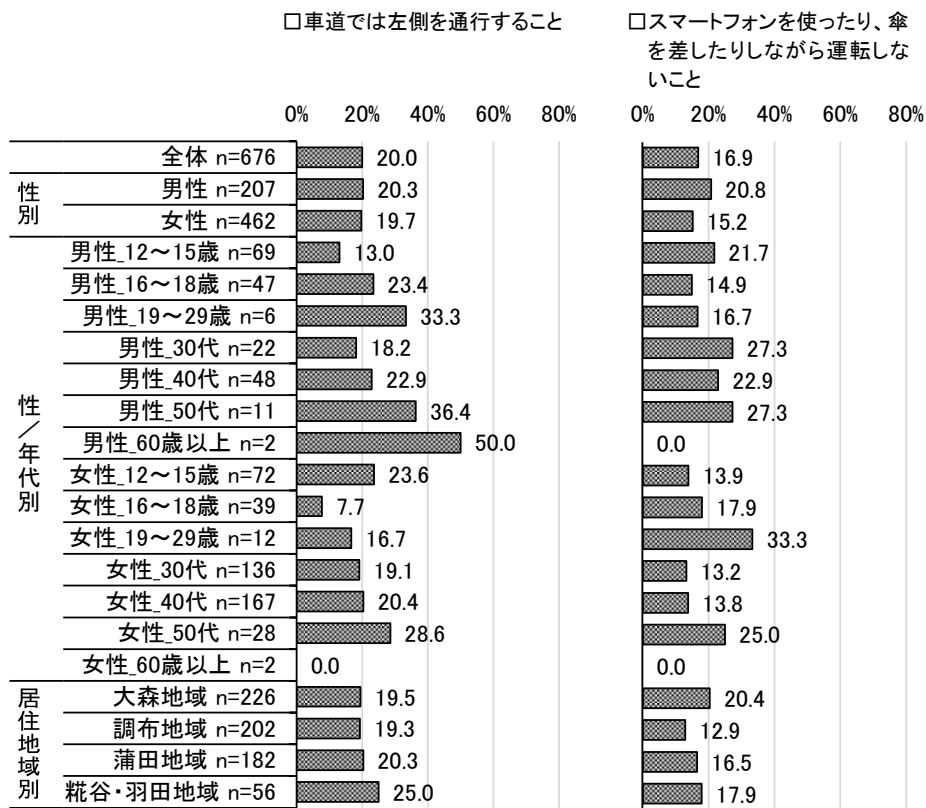
■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、男性では「一時停止等の標識を守ること」が、女性では「交差点右折時に二段階右折をすること」が最も高くなっている。「一時停止等の標識を守ること」は男性が33.3%、女性が22.1%と、男性が11.2ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「交差点右折時に二段階右折をすること」は男性16～18歳で約4割と高くなっている。「一時停止等の標識を守ること」はすべての年代で男性が女性の割合を上回っている。

居住地域別でみると、すべての地域で「交差点右折時に二段階右折をすること」が最も高く、調布地域、蒲田地域で3割後半となっている。





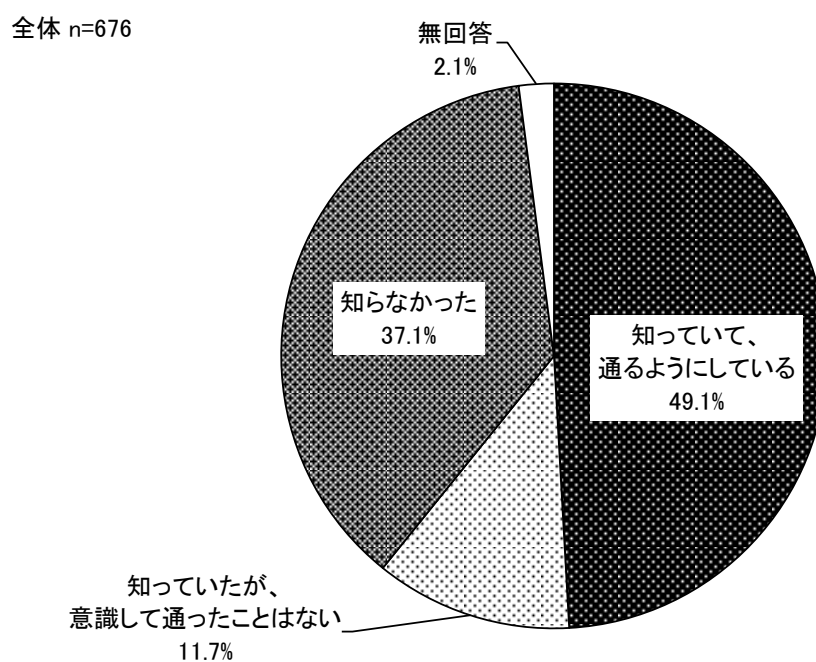
(10) 「自転車ナビマーク・ナビライン」の認知度

◇「知っていて、通るようにしている」は約5割となっている

【問 14 で「よく使う」「たまに使う」と回答した方に伺います。】

問 14-6 自転車の通行場所や進行方向を示す「自転車ナビマーク・ナビライン（矢羽根型路面表示）」を知っていますか。（1つのみ）

“自転車ナビマーク・ナビライン”の認知度については、「知っていて、通るようにしている」が 49.1% で最も高く、次いで「知らなかった」が 37.1%、「知っていたが、意識して通ったことはない」が 11.7% となっている。

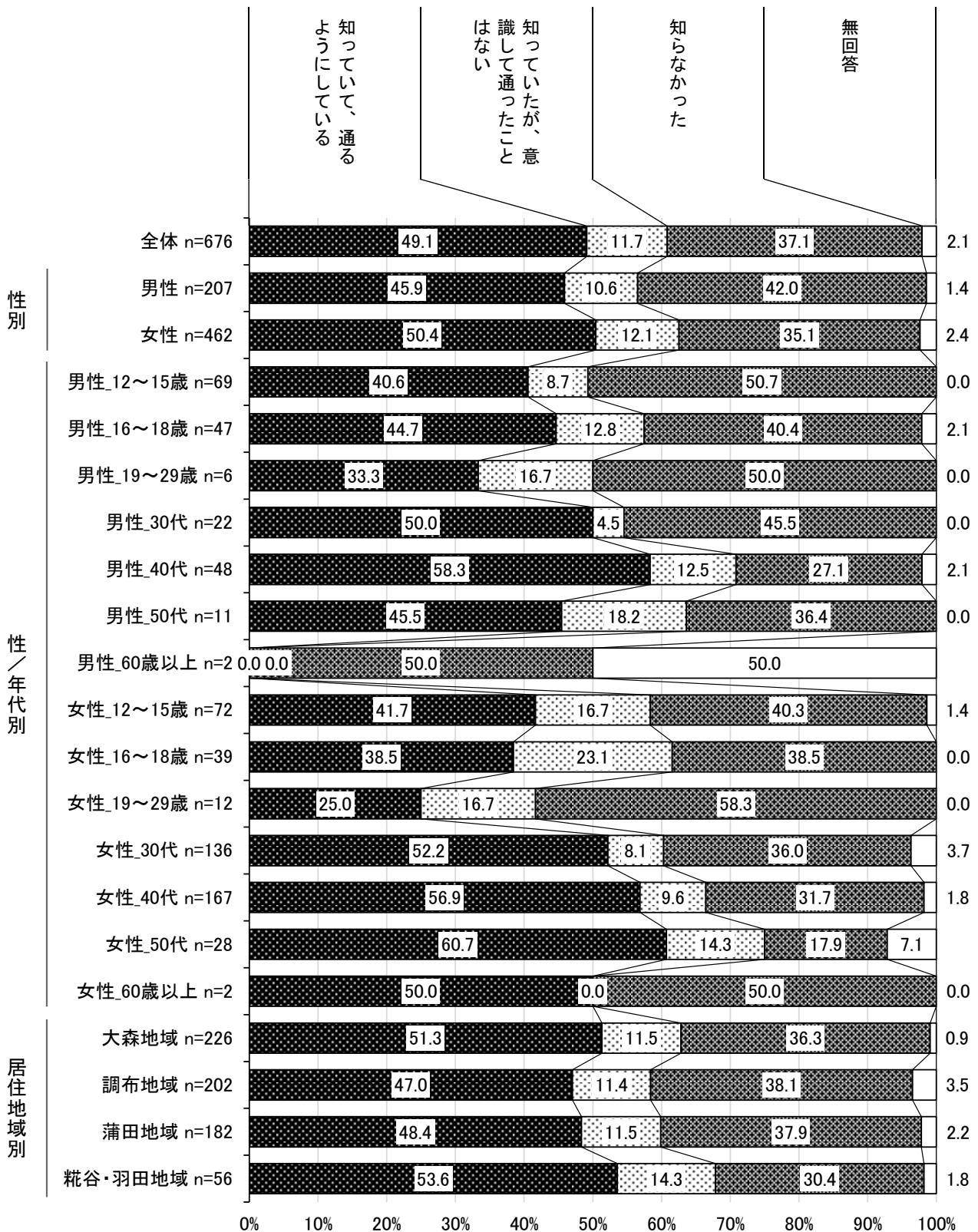


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「知っていて、通るようにしている」は男性が45.9%、女性が50.4%と、男性が4.5ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「知っていて、通るようにしている」は男性40代、女性40代で5割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、「知っていて、通るようにしている」は大森地域、糎谷・羽田地域で5割前半と高くなっている。



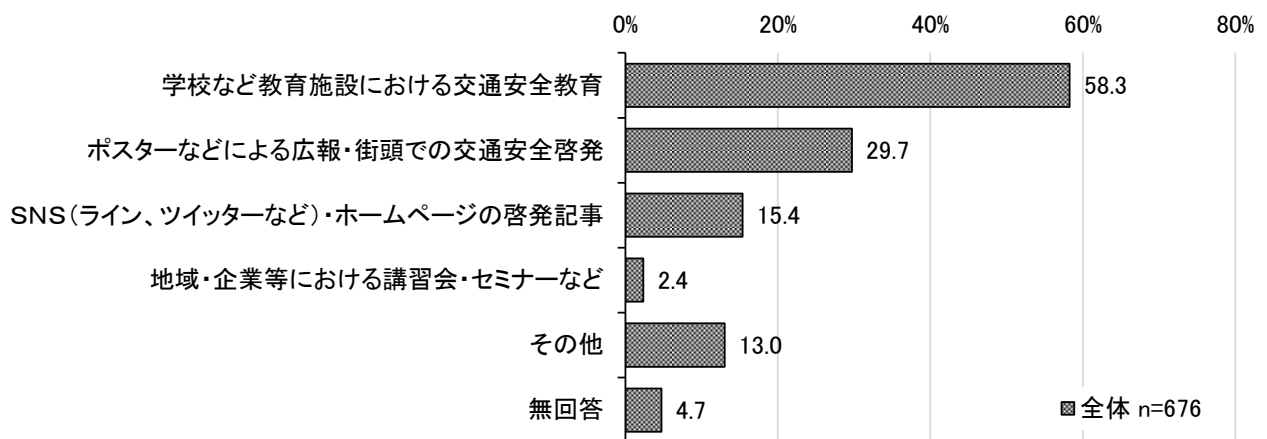
(11) 自転車の運転マナーを知る機会

◇「学校など教育施設における交通安全教育」が5割後半で最も高くなっている

【問 14 で「よく使う」「たまに使う」と回答した方に伺います。】

問 14-7 あなたは自転車の運転マナーについて、どこで知りましたか。(いくつでも)

自転車の運転マナーを知る機会については、「学校など教育施設における交通安全教育」が 58.3%で最も高く、次いで「ポスターなどによる広報・街頭での交通安全啓発」が 29.7%、「SNS（ライン、ツイッターなど）・ホームページの啓発記事」が 15.4%となっている。

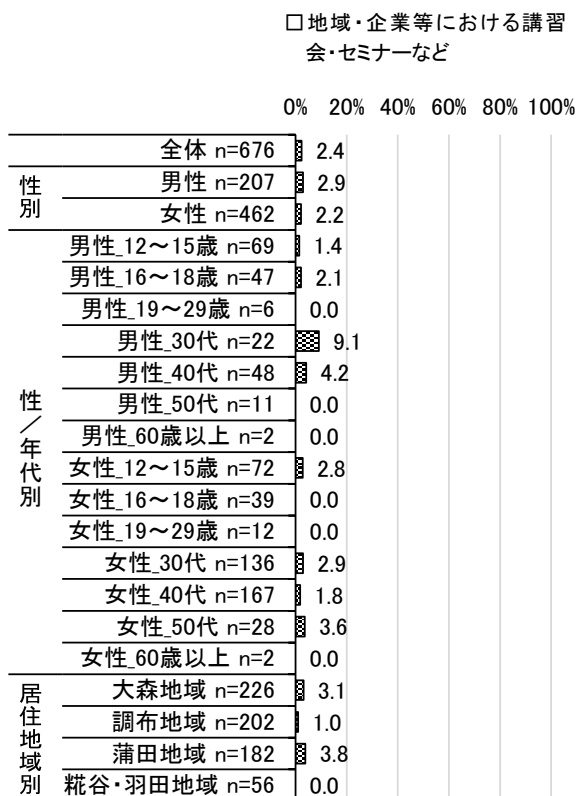
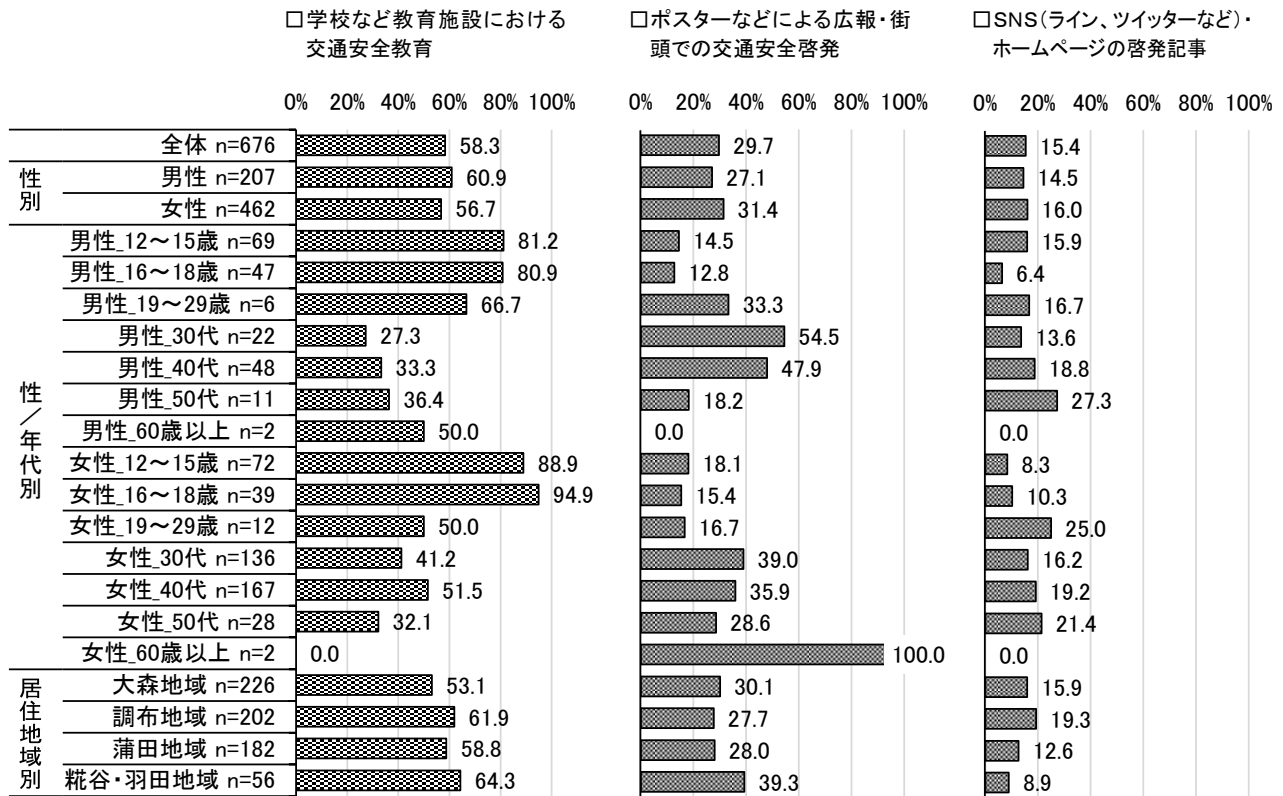


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、男性、女性ともに「学校など教育施設における交通安全教育」が最も高く、男性が60.9%、女性が56.7%と、男性が4.2ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「学校など教育施設における交通安全教育」は女性16～18歳で9割半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、すべての地域で「学校など教育施設における交通安全教育」が最も高く、糀谷・羽田地域で6割半ばとなっている。



(12) 損害賠償保険への加入状況

◇ 《加入している》（「自転車事故専用の保険」、「TSマーク付帯保険」、「傷害保険等とセット」、「他の保険（火災保険、自動車保険等）の特約」、「その他の保険」の合計値）は約6割となっている

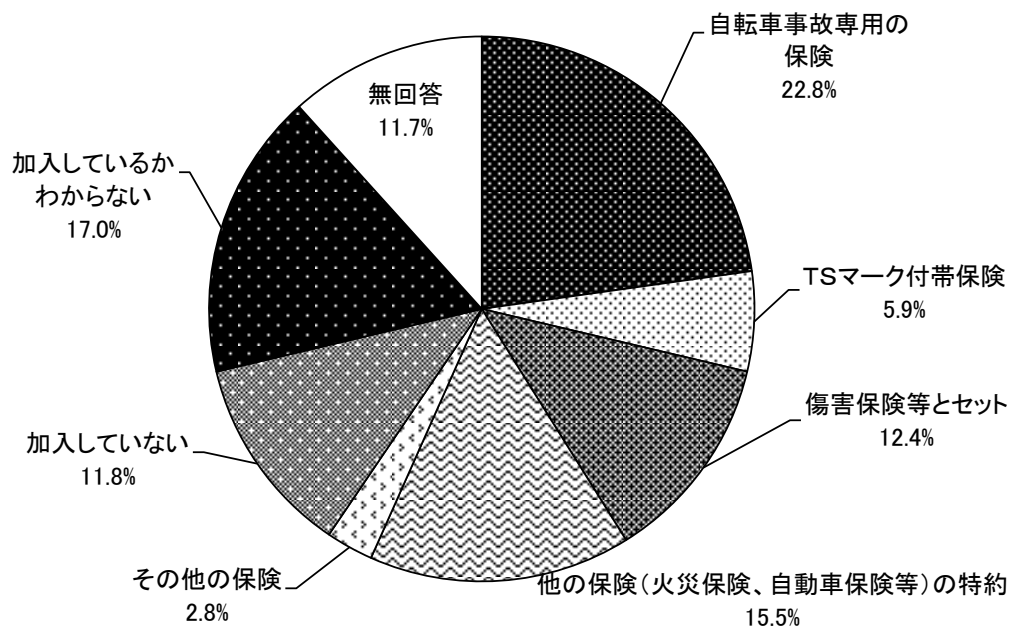
【問 14 で「よく使う」「たまに使う」と回答した方に伺います。】

問 14-8 あなたは、自転車事故に係る損害賠償保険に加入していますか。（1つのみ）

損害賠償保険への加入状況については、「自転車事故専用の保険」、「TSマーク付帯保険」、「傷害保険等とセット」、「他の保険（火災保険、自動車保険等）の特約」、「その他の保険」の合計値《加入している》が 59.4%である一方で、「加入していない」は 11.8%と、《加入している》が 47.6 ポイント上回っている。

なお、《加入している》の内、「自転車事故専用の保険」が 22.8%で最も高く、次いで「他の保険（火災保険、自動車保険等）の特約」が 15.5%、「傷害保険等とセット」が 12.4%となっている。

全体 n=676

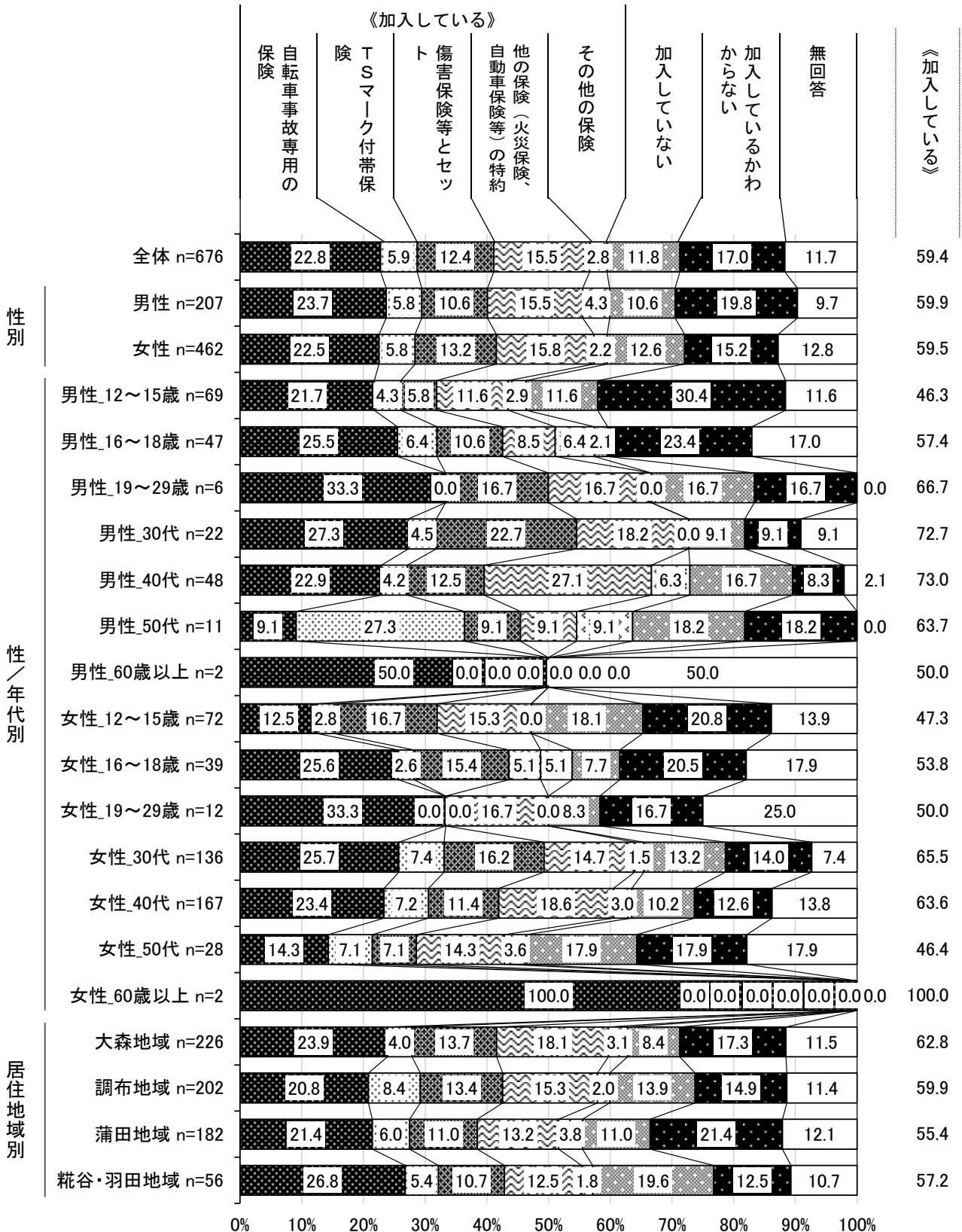


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、《加入している》は大きな差はみられない。

性／年代別でみると、《加入している》は男性 40 代で 7 割前半と高くなっている。一方で、「加入していない」は男性 40 代、女性 12～15 歳で 1 割後半と高くなっている。また、「加入しているかわからない」は男性 12～15 歳で約 3 割と高くなっている。

居住地域別でみると、《加入している》は大森地域で 6 割前半と高くなっている。一方で、「加入していない」は糀谷・羽田地域で約 2 割と高くなっている。



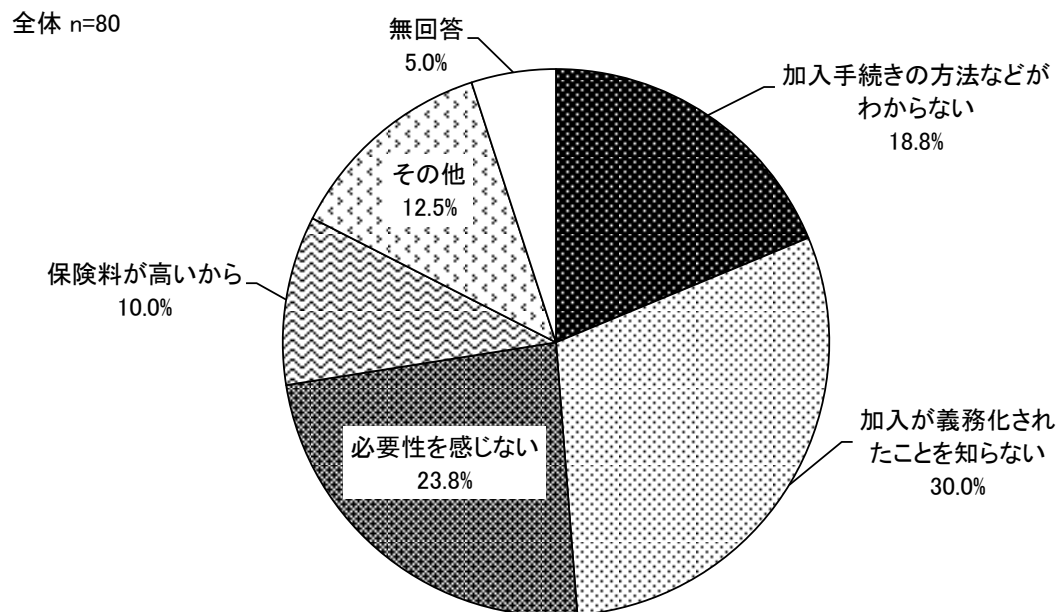
(13) 損害賠償保険に加入していない理由

◇「加入が義務化されたことを知らない」が3割となっている

【問 14-8で「加入していない」と回答した方に伺います。】

問 14-9 あなたが保険に加入していない理由は何ですか。(1つのみ)

損害賠償保険に加入していない理由については、「加入が義務化されたことを知らない」が30.0%で最も高く、次いで「必要性を感じない」が23.8%、「加入手続きの方法などがわからない」が18.8%となっている。

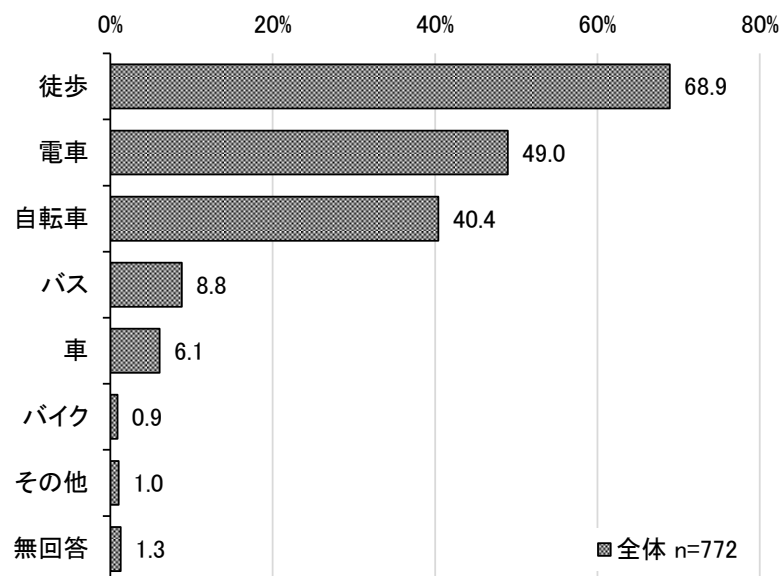


(14) 通勤・通学の移動手段

◇「徒歩」が6割後半で最も高くなっている

問 15 通勤や通学の移動手段は、何を使っていますか。(いくつでも)

通勤・通学の移動手段については、「徒歩」が68.9%で最も高く、次いで「電車」が49.0%、「自転車」が40.4%となっている。



6 子どもの学習について

(1) 将来への希望をもちながらの学びや成長

◇ 《思う》（「そう思う」、「どちらかというと思う」の合計値）は3割前半となっている

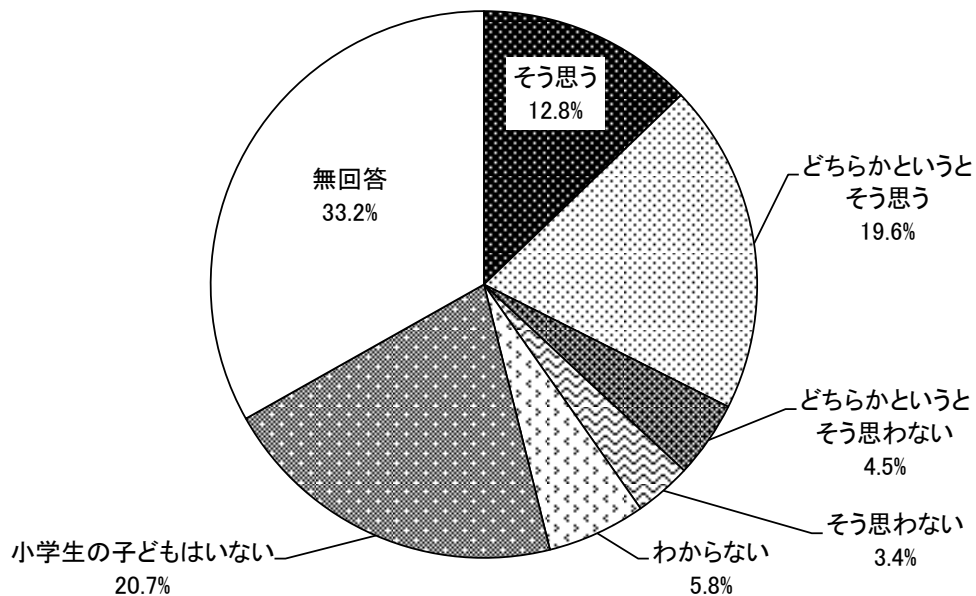
問 16 小学生のお子さんをお持ちの方に伺います。

ご自身のお子さんが、将来への希望をもって、学び、成長することができていると思いますか。（1つのみ）

将来への希望をもちながらの学びや成長については、「そう思う」、「どちらかというと思う」の合計値《思う》が32.4%である一方で、「どちらかというと思わない」、「そう思わない」の合計値《思わない》が7.9%と、《思う》が24.5ポイント上回っている。

なお、「小学生の子どもはいない」は20.7%となっている。

全体 n=772



■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、《思う》は男性が25.9%、女性が35.4%と、女性が9.5ポイント上回っている。

性／年代別でみると、《思う》は女性40代で5割後半と高くなっている。

居住地域別でみると、《思う》は調布地域、蒲田地域で3割半ばと高くなっている。

